

11 睡眠

解説

問1 (1a) ウ. conflicting (1b) イ. physical

問2 イ

問3 1. 語い力の低下 2. 集中力の低下 3. 話し言葉の不明瞭化

問4 Why is it that most of us want more sleep

問5 (5a) イ (5b) エ

問6 人間は一度ではなく二度眠るように作られたのであり、昼食後に10分昼寝をすると、たいていの人は気分がよくなるものである。

▷▷ 設問解説 ◁◁

問1 (1a)次の2文に「私たちには睡眠を求める気持ちがある反面、睡眠をとりすぎることを不安に思う気持ちもある」と述べられているので、私たちは睡眠に対して「相反する」気持ちを抱いていることがわかる。したがって、正解はウ。

ア.「肯定的な」イ.「否定的な」ウ.「相反する」エ.「思慮深い」

(1b)第2段落で「睡眠不足はハツカネズミに身体的な影響を大いに与える」という内容が述べられているのに対して、空所を含む文の次の文では「一晩よく眠れなかったからといって、体力や調整能力や気力が落ちることはほとんどない」と述べられているので、「人間は睡眠不足から身体的な問題を被ることは少ない」ことがわかる。したがって、正解はイ。なお、on the other hand「ところが一方」という表現もヒントになる。

ア.「精神的な」イ.「身体的な」ウ.「科学的な」エ.「異なった」

問2 下線部(2)の疑問文に続いて、第2～4段落で動物と人間とでは睡眠を必要とする理由が異なっていることが述べられているが、その要点は「人間は動物と違って身体的には睡眠を必要としていない」ことである。そして、第4段落第4文で「私たちの脳は、睡眠が提供してくれる休息を大いに必要としているようである」と述べられているので、正解はイ。

問3 下線部(3)の直後の文に述べられている3つの内容を簡潔にまとめる。

function 「機能」 suffer 「悪くなる、質が落ちる」

sharply 「ひどく、はっきりと」

問4 下線部(4)を含む文の最後に疑問符が打たれていることに注目し、疑問文を構成

する。この文で提起した疑問に対する答えが続く2つの段落で提示されていることから、「なぜ私たちは(可能であれば)より多くの睡眠を欲するのだろうか」という意味の疑問文を作ればよいことがわかる。疑問詞 + is it that ...? は疑問詞を強調する強調構文であり、Why is it that ...? は「…はいったいなぜなのか?」という意味。

問5 アメリカ人の研究者の考えは、下線部(5a)を含む文の that 以下に述べられている。ヨーロッパの研究者の考えは、下線部(5b)を含む文の that 以下、および次の文に述べられている。

ア.「私たちは日中10分間の昼寝をするべきである」

イ.「たいていの人は実際に眠っているよりも夜により多くの時間眠る必要がある」

ウ.「私たちは好きなだけ多くの時間眠るべきである」

エ.「私たちが睡眠が好きだからといって、睡眠をとる必要があるということにはならない」

問6 ここでの S is made to do は「Sは～するようにできている」の意味。使役動詞 make の受動態と混同しないこと。一方、後半は使役動詞 make O do を用いた形。使役動詞 make が無生物主語で用いられるとき、主語が原因・理由を表し、「SのおかげでOは…する」と訳出する。なお、will は習性を表し「…するものだ」という意味。

例1 Mr. Tanaka is made to be a scientist.

「田中さんは科学者になるように生まれてきたようなものだ」

例2 I was made to go on a business trip to Tokyo yesterday for my boss.
「昨日は上司の代わりに東京に出張させられました」

例3 His joke made me laugh a lot.

「彼の冗談のせいで、大いに笑ってしまった」

not X but Y 「XではなくY」 nap 「昼寝、仮眠」

3. 逆接・対比

前に述べた内容に反することや、対照的なことを述べるときに用いる。逆接のディスコース・マーカーの後ろで、筆者の主張や論点が述べられていることが多い。また、逆接・対比の意味の関係が成立するように空所を補充させる問題は頻出である。

「しかし」but / (and) yet / however / nevertheless / still

「一方で」on the other hand / by[in] contrast

4. 因果関係

原因、結果の関係を明確に述べるときに用いる。

「したがって」so / consequently / therefore / thus / hence / as a result / for this reason / because of this / this is why S+V ...

「それは…だからだ」after all / this is because S V ... / the reason for this is that S V ...

本問の問1では、yet と on the other hand が解答する際のヒントになっている。

要約

最近の研究によれば、人間は他の動物と違い、身体ではなく脳に休息を与えるために眠るようである。必要とされる睡眠時間に関してはいろいろな議論があるが、昼寝が効果的であることはわかっている。(92字)

構文・語句解説

第1段落

¹Humans have long conceived conflicting sentiments about sleep. ²We want it, enjoy it and despair when we can't get enough of it. ³Yet we also have a fear of getting too much. ⁴Napoleon recommended six hours of sleep each night for a man, seven for a woman and eight for a fool.

¹人間は長い間睡眠に関して相反する気持ちを抱いてきた。²睡眠を求める、楽しむ、また睡眠を十分に得られないとき絶望する。³しかし、睡眠をとりすぎているのではという不安も抱えている。⁴ナポレオンは男性には毎晩6時間、女性には7時間、愚か者には8時間の睡眠を勧めた。

humans 「人間」 long 「長い間」 (=for a long time)

conceive 「〈考えなど〉を抱く」 sentiment 「気持ち」

² 3つの it はいずれも sleep を指す。 despair 「絶望する」

get enough of A 「Aを十分に手にする」

⁴ recommend 「を勧める」

第2段落

¹Why do we need sleep, and how much of it should we get? ²Scientists are beginning to answer the questions, and believe that humans sleep for different reasons than other animals. ³In experiments, mice have been shown to suffer physically from lack of sleep. ⁴After a few days, they begin to lose weight, although they eat a lot. ⁵After 14 days, they die.

¹なぜ私たちは睡眠を必要としているのだろうか、またどれだけの睡眠をとるべきなのだろうか？²科学者はこの問題を解明し始めていて、人間は他の動物とは違う理由で眠るを考えるようになっている。³実験によると、ハツカネズミは睡眠不足により身体的に苦しむことが証明されている。⁴たくさん食べているのに、数日後には体重が減り始める。⁵14日後には死んでしまうのである。

2 answer the questions と believe 以下が and で結ばれている。

- different A than B 「Bとは違うA」
- experiment 「実験」 mice < mouse 「ハツカネズミ」の複数形。
- be shown to do 「…すると証明される」 suffer from A 「A(病気など)で苦しむ」
- physically 「身体的に」 lack 「不足、欠如」

第3段落

¹Humans, on the other hand, usually show few physical problems from lack of sleep. ²A bad night's sleep will cause little reduction in strength, coordination or stamina. ³Yet cognitive function suffers sharply. ⁴Our vocabulary drops measurably; we are unable to concentrate for long periods; our speech may become unclear.

¹ところが人間は普通、睡眠不足による身体的な問題を示すことは少ない。²一晩よく眠れなかつたからといって、体力や調整能力や気力が落ちることはほとんどない。³しかし、認識機能はひどく損なわれる。⁴語い力は相当に落ち、長い間集中することができなくなり、話し方がはっきりしなくなることもある。

- cause 「引き起こす」 reduction in A 「Aの減少」 strength 「体力」
- stamina 「気力、スタミナ」
- vocabulary 「語い力」 measurably 「かなり、目に見えて」

- concentrate 「集中する」
- speech 「話し方、発話」

第4段落

¹Why the difference between humans and other animals? ²Scientists reason that humans have learned to rest their bodies even in a waking state. ³The difference in metabolic rate between a person lying down and one who is asleep may be as little as 5 percent. ⁴Yet our brains, it seems, very much need the rest that sleep provides.

¹人間と他の動物の間に違いがあるのはなぜだろう？²科学者は、人間は目覚めている状態でも身体を休めることができるようになっている、と考えている。³横になっている人と眠っている人の間の代謝率の違いはわずか5パーセントかもしれない。⁴しかし、私たちの脳は、睡眠が提供してくれる休息を大いに必要としているようである。

1 Why の後に名詞句のみを置くことがある。

- difference between A and B 「AとBの違い」
- reason that 節「…と論じる、推論する」 learn to do 「…できるようになる」
- rest 「休ませる、に休養を与える」 waking 「目覚めている」
- state 「状態」
- as little as + 数詞 「わずか…、…ほど少ない」
- 4 our brains, it seems, very much need ... = it seems that our brains very much need ...
 provide 「を与える、提供する」

第5段落

¹The recommended amount of sleep has been disputed in recent years. ²Humans have strange sleep patterns, usually getting six to eight hours a night during the working week, and up to 10 on weekends. ³Why is it that most of us want more sleep if we can get it?

¹近年、推奨される睡眠の量が議論されている。²人間は奇妙な睡眠パターンを持っており、平日は一晩に6時間から8時間眠り、週末には10時間も眠るのが普通である。³私たちはできればもっと眠りたいと思うのはいったいなぜだろう？

- dispute 「議論する」 recent 「最近の」
- 2 usually getting ... on weekends は分詞構文。 the working week 「平日／週労働時間」

第 8 . 9 段落

¹American researchers now argue that humans need a minimum of nine hours' sleep each night. ²These scientists theorize that we are deprived of sleep most of the time. ³As proof, they cite the drowsiness most of us feel at some point during the day.

European researchers challenge this notion, asserting that there is such a thing as sleep gluttony. ⁴The fact that we like sleep does not mean we need it.

¹アメリカの研究者は今、人間は毎晩最低9時間の睡眠が必要である、と論じている。²これらの研究者は、私たちはほとんどいつでも睡眠を奪われている、と推論している。³彼らは証拠として、日中のある時点で私たちのほとんどが感じる眠気を挙げる。

⁴ヨーロッパの研究者はこの考えに異議を唱えており、睡眠をむさぼる性質といったものがあると主張している。⁵睡眠が好きだという事実は、睡眠が必要だということを意味してはいない。

1 researcher 「研究者」 argue that 節「…と論じる、主張する」

minimum 「最低限」

2 theorize that 節「…だと推論する、…だと理論上想定する」

deprive A of B 「AからBを奪う」 most of the time 「たいていは、ほとんどいつも」

3 cite 「(例として)挙げる、引き合いに出す」 drowsiness 「眠気」

at some point 「ある時点で」 during the day 「日中、昼間に」

4 asserting 以下は分詞構文で、「そして…と主張している」という意味。

challenge 「に異議を唱える、を疑う」 notion 「考え、意見」

assert that 節「…だと主張する」

5 that we like sleep は The fact と同格の名詞節。

feel better. ⁶This is the reason so many cultures keep the siesta hour.

¹いろいろな研究がヨーロッパの考え方を支持している。²たとえば、人々はより長く眠る機会を与えられると、その次の日はより遅い時間まで疲れを感じないかもしれない。³ベッドで過ごす余分な時間は、私たちの日々の生活リズムを調整しているだけかもしれない。

⁴専門家によると、私たちの多くが日中感じる眠気は夜の睡眠が少なすぎたからではなく、午後の早いうちに昼寝が必要だからなのである。⁵人間は一度ではなく二度眠るように作られたのであり、昼食後に10分昼寝をすると、たいていの人は気分がよくなるものである。⁶これがとても多くの文化にシエスタの時間が残っている理由である。

1 study 「研究」

2 opportunity to do 「…する機会」 until a later hour 「より遅い時間まで」

3 extra 「余分な」 do nothing more than do 「…するだけだ」

adjust 「を調整する、調節する」 daily rhythm 「日々の生活リズム」

4 may not be because ... but because ... は not X but Y 「XではなくY」の表現を用いたもの。 many of us feel during the day は the drowsiness を修飾する関係代名詞節。

expert 「専門家」

6 so 以下は reason を修飾する関係副詞節。

siesta 「シエスタ」スペイン、イタリア、ラテンアメリカ諸国に見られる昼寝の習慣のこと。

第 8 . 9 段落

¹Studies support the European view. ²If people are given the opportunity to sleep longer, for instance, they may not feel tired until a later hour the next day. ³The extra hour in bed may do nothing more than adjust our daily rhythm.

⁴Experts say the drowsiness many of us feel during the day may not be because we had too little sleep at night, but because we need an early afternoon nap. ⁵Humans were made to sleep not once, but twice, and a 10-minute nap after lunch will make most of us

12

触ることの大切さ

解 答

- 問1 世の中について書くためには、手を伸ばして触れてみる必要があるということ。(36字)
- 問2 ヘレン・ケラーの像に触ると、見たときには気づかなかった重さ、深さ、形、個性を感じられたということ。(50字)
- 問3 目だけを使って見るときには、私たちはまさに目の前にあるものだけに限られてしまう。
- 問4 ア. commonplace
- 問5 イ. extraordinary development
- 問6 今日私たちは、どんなものでも完全に理解するのに触れることがいかに重要であるのかに気づいている。
- 問7 エ. Do touch

▷ 設問解説 ◀

- 問1 「このアドバイス」とは第1段落にあるマーク・トウェインの語ったアドバイスのことである。第1文で比喩的に語ったものを具体的に述べたのが第2文なので、第2文をまとめる。なお、2つの it は共に the world を指している。
- 問2 下線部⁽²⁾は「その違いは驚くべきものだった」という意味。「その違い」とはヘレン・ケラーの像を見ていたときと、手で触れたときの違いである。また、「驚くべきものだった」については、次の文に具体的に述べられている。
- 問3 be limited to A 「Aに限られている」の A の位置に関係代名詞 what で導かれた名詞節がきている。In seeing は「…見るときには」という意味の副詞句として用いられている。また、with は「…を用いて」という意味であり、前置詞+名詞に続く alone は「…だけ」という意味を表す。

例 He can't live on his small salary alone.

「彼はわずかな給料だけでは生活が成り立たない」

□ immediately 「すぐ近くに」

- 問4 空所⁽⁴⁾を含む文に続いて、「草の上を転がっている犬に触ることで、その犬と心を通わせることができた」というヘレン・ケラーの日記が引用されていることから、「犬に触ることでありふれた経験に新たな感覚が生じる」とわか

る。

ア.「ありふれた」イ.「わくわくするような」ウ.「危険な」エ.「恐ろしい」

- 問5 空所⁽⁵⁾を含む文に続いて、「驚くほど発達した触覚」の具体例が3つ述べられている。

ア.「基本的な区別」イ.「驚くべき発達」ウ.「感情的な経験」エ.「神秘的な予言」

- 問6 be aware of A 「Aに気づいている」の A の位置に疑問詞 how で導かれた名詞節がきている。また、how important は、be important to A の important が how と結びついたもの。

□ complete 「完全な」

- 問7 本文全体を通して、触ることの重要性が述べられている。

ア.「どうぞお好きなように」イ.「跳ぶ前に見よ」ウ.「あきらめてはいけない」エ.「どうぞ触れてみてください」

英文中に出てくる具体例、体験談、引用は、読み手に対して筆者が何かを説得力を持って言うために使われる。したがって、これらが何を言うためのものなのかを確認することが、論旨の展開、さらには文の内容を把握するうえで大切である。本問の第1段落中のマーク・トウェインの引用、第2～4段落中の筆者の体験談は「触ることの重要性」を言うためのものである。また、問4は第5段落中のヘレン・ケラーの日記からの引用が、問5は第6段落中の具体例がそれぞれ何を言うためのものなのかを読み取らせる問題である。

要 約

見るだけではなく、触ることで対象となるものを深く理解することができる。今日では触ることの重要性が理解されるようになってきている。(66字)

▷ 構文・語句解説 ◀

第1・2段落

¹"Don't look at the world with your hands in your pockets," Mark Twain once told an aspiring young author. ²"To write about it you have to reach out and touch it."

³I thought of this advice when I visited Robert Barnett, former executive director of the American Foundation for the Blind. ⁴Barnett was blinded at the age of 14 in an accident.

⁵As we chatted, he noticed, I don't know how, that I was gazing at a life-size bronze head of Helen Keller, which he keeps near his desk.

「ポケットに手を入れたまま世の中を見てはいけない」マーク・トウェインはかつて成功することを願っている若い作家に語った。²「世の中について書くためには、手を伸ばして触れてみる必要がある」

³米国盲人連盟の前理事長のロバート・バーネットを訪問したとき、私はこのアドバイスを思い出した。⁴バーネットは14歳のときに事故で失明した。⁵談笑していると、彼の机の近くに置いてあったヘレン・ケラーの等身大のブロンズ製の頭像を私が見つめていることに、どうしてかは分からぬが、彼は気づいたのである。

¹with your hands in your pockets は付帯状況の with を用いた表現。with A ~ で「Aが~の状態で」という意味。

aspiring 「成功することを願っている、大志を抱いている」

² reach out 「手を伸ばす」

³ think of A 「Aを思い出す」 former 「前の」 executive director 「理事長」

⁴ be blinded 「失明する」

⁵I don't know how は he noticed that I ... という主節に対して、注釈的な情報を述べたもの。

chat 「談笑する」 notice 「に気づく」 gaze at A 「Aを見つめる」

life-size 「実物大の」 head 「頭像」

第3～5段落

¹"Feel it with your hands," he told me. ²I ran my fingers over the cool metal. ³"Now does it look any different?" Barnett asked.

⁴The difference was surprising. ⁵The sculpture now had weight, depth, shape and character which had escaped my eyes.

⁶"Touch is more than a substitute for vision," Barnett said. ⁷"It reveals qualities other senses can't even suggest. ⁸One of the greatest mistakes people make is thinking you have to be blind to enjoy it." ⁹Learning to develop the sense of touch is something like making your other senses secondary. ¹⁰In seeing with the eyes alone we are limited to what is immediately in front of us. ¹¹Touch along with vision enables us to see something as a whole.

¹「手で触ってみてください」彼は私に言った。²私は冷たい金属の上に指を滑らした。³「さあ、何か違いは見えませんか」バーネットは尋ねた。

⁴その違いは驚くべきものだった。⁵今やその塑像には、眼ではとらえられなかった重き、深

さ、形、個性があった。

⁶「触ることは視覚の代わり以上のものなのです」とバーネットは言った。⁷「それは他の感覚では思い起こさせることもできないさまざまな特色をあらわにするのです。⁸人が犯す最も大きな間違いの1つは、それを楽しむには盲目でなければならないと考えることです」⁹触覚を発達させられるようになることは、他の感覚を副次的なものにすることといふか似ている。¹⁰目だけを使って見るときには、私たちはまさに目の前にあるものだけに限られてしまう。¹¹見ることに加えて触ることで、私たちは全体として何かを見ることができる所以である。

2 run 「走らせる」

⁵which had escaped my eyes は weight, depth, shape and character を修飾する関係代名詞節。

sculpture 「塑像、彫刻」 character 「個性」 escape 「を逃れる」

⁶ more than A 「A以上のもの」 substitute for A 「Aに代わるもの」

vision 「視覚、視力」

⁷other senses can't even suggest は qualities を修飾する関係代名詞節。

reveal 「を明らかにする」 suggest 「を示唆する」

⁸One of ... is thinking は One が主語、is が述語動詞、thinking 以下が補語となる動名詞句。people make は the greatest mistake を修飾する関係代名詞節。

⁹ learn to do 「…できるようになる」 be something like A 「いくぶんAに似ている」

secondary 「副次的な、二次的な」

¹¹ along with A 「Aに加えて」 enable O to do 「Oが…することを可能にする」

as a whole 「全体として」

第6段落

¹Awareness of touch can bring a new feeling to the most commonplace experiences. ²"I have just touched my dog," wrote the young Helen Keller in her diary. ³"He was rolling on the grass with pleasure in every muscle and limb. ⁴I wanted to catch a picture of him in my fingers, and I touched him lightly as I would cobwebs. ⁵But, to my surprise, his body turned towards me and moved into a sitting position, and his tongue gave my hand a lick. ⁶He pressed close to me as if he intended to put himself into my hand. ⁷He loved it with his tail, with his paw, with his tongue. ⁸If he could speak I believe he would say with me that paradise is attained by touch."

「触ることを意識することで最もありふれた経験に新たな感覚が生じことがある。」²若き日のヘレン・ケラーは日記に記している。「私は犬に触れたところだ。³その犬はすべての筋肉と足で喜びを表しながら、草の上を転がっていた。⁴私は指の中にその犬の姿をとらえたかったので、クモの巣に触れるように軽く触れてみた。⁵しかし驚いたことに、その犬は身体を私の方に向けて、おすわりの姿勢になり、舌で私の手をなめた。⁶まるで私の手の中に入るつもりであるかのように、身体をぐっと押し付けてきた。⁷尻尾で、足で、舌で、そうするのを楽しんでいた。⁸その犬が話すことができたら、楽園は触ることで得られる、と私と一緒に言うのではないかと思う。」

1 awareness 「意識」

3 muscle 「筋肉」 limb 「(頭部・胴体と区別して)肢體、手足」

4 as I would cobwebs = as I would touch cobwebs

picture 「心に描くもの、理解」 cobweb 「クモの巣」

5 to A's surprise 「Aが驚いたことに」 sitting position 「おすわりの姿勢」

tongue 「舌」 give A a lick 「Aをなめる」

6 press 「押す」 close to A 「Aにぴったりと」 as if S V ... 「まるで…のように」

intend to do 「…するつもりである」

7 tail 「尻尾」 paw 「(犬・猫などの)足」

8 If he could speak I believe he would say ... の If 節は he would say ... に対する仮定法の条件節。

paradise 「楽園」 attain 「を獲得する」

第7段落

¹The sense of touch is capable of extraordinary development. ²Expert millers can recognize any grade of flour by rubbing a little between thumb and forefinger. ³A cloth expert can identify the coloring used in a cloth by the difference it makes in the texture. ⁴The blind botanist, John Grimshaw Wilkinson, learned to distinguish more than 5,000 species of plants by touching them lightly with his tongue.

¹触覚は驚くほど発達することもある。²熟練した粉引き職人は、親指と人差し指の間で少しこするだけでどんな小麦粉の等級も識別できる。³布地の専門家は、肌触りの違いで布地に使われている染料を特定できる。⁴盲目の植物学者、ジョン・グリムショー・ウィルキンソンは、舌で軽く触れるだけで5,000種以上の植物を区別できるようになった。

1 be capable of A 「Aの可能性がある」

2 expert 「熟練した／専門家」 miller 「粉屋、製粉業者」 recognize 「を識別する」

grade 「等級」 flour 「小麦粉」 rub 「こする」 thumb 「親指」

forefinger 「人差し指」

3 it makes 以下は the difference を修飾する関係代名詞節。

identify 「を特定する」 coloring 「染料」 texture 「肌触り、手触り」

4 botanist 「植物学者」 distinguish 「を区別する」 species 「種」

第8・9段落

¹We are aware today of how important touch is to complete understanding of anything, and there are now museums that, instead of the old "Don't Touch" signs, offer children the chance to touch—to feel the roundness of a sculpture, the beautiful balance of an Inca pitcher, and the rough iron of an early New England kettle. ²Visitors to the Brooklyn Children's Museum are encouraged to pick up and handle the objects on display in every exhibit. ³"If they can't touch the things," says Michael Cohn, the museum's senior instructor of anthropology, "it is no different from watching a movie or TV show."

⁴Maybe, as we all aim to enlarge the range of our impressions, our motto should be: Do touch!

¹今日私たちは、どんなものでも完全に理解するのに触れることがいかに重要であるのかに気づいているし、今では、昔からある「手を触れないでください」という掲示の代わりに、子供たちに触れる機会を、彫刻の丸みや、インカの水差しの見事な均整、初期のニューエングランドのやかんのざらざらした鉄を感じる機会を与える博物館もある。²ブルックリン子供博物館を訪れる人は、すべての展示で陳列されているものを手にとって、触れてみるように勧められる。³もしも触ることができなければ、映画やテレビ番組を見るのとまったく変わりませんよ」と、この博物館の人類学上級指導員のマイケル・コーンは言っている。

⁴おそらく、印象の幅を広げることを誰もが目指す以上は、私たちのモットーは当然次のようなものになるだろう。「どうぞ触れてみてください」

1 instead of A 「Aの代わりに」 the chance to do 「する機会」 roundness 「丸み」

Inca 「インカの」 pitcher 「水差し」 rough 「ざらざらした」 iron 「鉄」

2 the objects は pick up と handle に共通する目的語。

encourage O to do 「Oに…するように勧める、促す」 pick A up 「Aを手にとる」

handle 「に手で触れる」 object 「物」 on display 「陳列された」

exhibit 「展示」

3 senior instructor 「上級指導員」 anthropology 「人類学」

4 aim to do 「…することを目指す」 enlarge 「を広げる」 range 「範囲」

motto 「モットー, 標語」

13

移動の意味

解答

問1 (1a) イ. virtual (1b) ウ. previous (1c) ア. opposite
(1d) エ. spiritual

問2 ウ. 先々のこととは考えないで

問3 ア. time

問4 値値観や当然とされていることが地域によって違うこと。(26字)

問5 旅するときに私たちが見つけるものは何であれ、いつも心の中に持っているものにすぎないのだ。

問6 イ

▶▶ 設問解説 ◀◀

問1 (1a) 空所を含む文の主語 Global communications 「地球規模の通信網」とは第1段落第4文の具体例からしてもインターネットのことである。「インターネットがすべての人をどのような隣人としたのか」を考える。

(1b) 第3段落第1, 2文で「変化があまりに急速であり、過去が未来の準備にならない」と述べている。「導いてくれるどのような例がないのか」を考える。

(1c) 第4段落第1文では「今では時間を超えて旅することができる」ということが述べられている。「今夜にはどのような季節の真っ只中へ飛んで行くことができるか」を考える。

(1d) 第5段落第3文では「価値観が混乱する」ということが述べられている。「明日の旅は、どのような混乱という感覚を伴うものなのか」を考える。

ア.「反対の」イ.「実質的な」ウ.「以前の」エ.「精神的な」

問2 下線部(2)の文字通りの意味は「道の曲がり角を数えることなく」である。これは、第2段落第1文の we fail sometimes to consider where we are going or what we might be losing を比喩的に述べたもの。

count 「を数える」 bend 「曲がり角、曲がったもの」

問3 able 以下で、「21世紀から13世紀へと」、つまり「現在から過去へと」時間旅行することができると述べている。

問4 下線部(4)を含む文は「空間的な距離が縮まることで、私たちは今なお残るより意味のある距離が見えなくなっているのかもしれない」という意味。コロン以

下の flying from Beirut to Beijing to Bogota on successive days とは「空間的な距離が縮まること」を具体的に述べ、we may underestimate the differences in values and assumptions と続いている。また、次の文ではこの内容を「村の広場で正しいとされることが地球村の隅々にまで行き渡ることはない」と比喩的に述べている。したがって、「今なお残るより意味のある距離」とは「価値観や当然とされていることが地域によって違うこと」である。

□ significant 「意義深い」

問 5 whatever we ... we travel が述語動詞 is の主語となる名詞節。whatever に導かれた節が名詞節になるときは「…する何でも／…するどんなものも」、副詞節になるときは「たとえ何が[を]…しても」という意味。また、関係代名詞 what で導かれた名詞節が補語である。

例 1 He tells us whatever happens.

「彼は私たちに起きることは何でも話してくれる」

例 2 We will love you whatever happens.

「何が起きても私たちはあなたのこと愛しています」

□ all along 「ずっと、初めから」

問 6 ア.「家にいては世界中の文化を楽しむことはできない」第 2 段落第 1 文の内容に不一致。

イ.「今日のような国境のない時代には根なし草の人人が増えている」第 2 段落の内容に一致。

ウ.「テレビを見るとき、次々と変わる画像が世界の優れた理解を与えてくれる」第 5 段落第 1 文の内容に不一致。

エ.「エマソンは、旅することで人々の心が豊かになると考へた」第 5 段落第 5 文の内容に不一致。

比喩表現は、何かを説明するときに他の物事を借りて表現するものである。比喩表現を文字通り解釈しただけでは、筆者が何を言おうとしているのかわからぬことが多い。文章中の具体的に述べられた部分から、何を言うための比喩なのかを確認することが大切である。また、比喩表現が、説明問題や選択問題で問われることも多い。本問では、問 2、問 3 の該当箇所をはじめ、比喩表現が多用されている。

要約

移動手段や通信網の発達によって、物理的距離は縮まっているが、地域間の価値観の違いが

見えなくなり、しっかりした拠りどころのない者にとってはいっそうの精神的混乱が生じる恐れがある。(88字)

▶▷ 構文・語句解説 ◀◁

第 1 段落

¹All of us, almost daily, experience the mobility of our world: we could be in Tibet tomorrow. ²And not only our bodies, but also our minds are traveling at the speed of light. ³Global communications have made us all virtual neighbors and taught us tolerance. ⁴Two generations ago, there were no roads in Nepal; now the information superhighway and English language paths run through the teahouses of the Himalayas.

¹誰もが、毎日のように、私たちの世界の移動性を経験している。明日にはチベットにいるかもしれない。²それに、肉体だけでなく精神も光速で移動している。³地球規模の通信網によって、あらゆる人が実質的に隣人となり、私たちは寛大であることを学んだ。⁴2 世代前には、ネパールに道路はなかったが、今では情報スーパーハイウェイと英語の小道がヒマラヤ山地の茶店にまで通っている。

1 □ mobility 「あちこち移動できること、移動性」

2 □ not only X but also Y 「XだけでなくYも」

3 □ global 「地球規模の、世界的な」 □ communications 「通信網、通信機関」

□ tolerance 「寛大さ、容認」

4 □ information superhighway 「情報スーパーハイウェイ」インターネットのこと。

□ run through A 「〈道などが〉Aを通って伸びている」 □ the Himalayas 「ヒマラヤ山脈」

第 2 段落

¹Yet even as we enjoy the opportunities of the borderless economy and the varieties of world music and our ability to appreciate the cultures of the world in our living rooms, we fail sometimes to consider where we are going or what we might be losing. ²"To be rooted," wrote the philosopher Simone Weil, "is perhaps the most important and least recognized need of the human soul." ³And in our dawning age of rootlessness, we tend to speed into the future without counting the bends in the road.

¹しかしながら、私たちが、国境のない経済の機会を享受し、様々なワールドミュージックを

楽しみ、世界中の文化を居間にいながら楽しめるときでさえも、自分たちがどこに向かおうとしているのか、何を失いかけているのかをときおり考えてみることもない。²哲学者のシモーヌ・ヴェーユは記した。「根を下ろしていることは、おそらく、人間の魂が必要としている最も重要な、かつ最も認められないものである」と。³そして、今始まろうとしている根なし草の時代に、私たちは道にある曲がり角を数えることもなく、未来へと突き進みがちなのである。

- 1 □ borderless 「国境のない」 □ variety 「多様性」
□ world music 「ワールドミュージック」 第三世界のエスニックな色彩の強いポピュラーミュージックのこと。
□ A's ability to do 「Aが…できること」 □ appreciate 「を正しく認識する、味わう」
□ fail to do 「…しない、できない」
2 □ be rooted 「根を下ろしている」 □ recognized 「(社会的に)認められた」
3 □ dawning 「今始まろうとしている／夜明け」
□ rootlessness 「根なし草であること、社会的立場がないこと」
□ tend to do 「…しがちである」 □ speed into A 「Aへと突き進む」

第3段落

¹One problem, of course, is that everything is happening so quickly. ²Five years ago is ancient history now, and yesterday scarcely prepares us for today. ³We have no previous examples to guide us. ⁴The classical poets Homer and Virgil sang of travelers, but not ones crossing 11 time zones before noon. ⁵And nomads have always traveled across the earth, but on foot and in tune with the rhythm of the seasons and tradition. ⁶A new age of mobility means a new age of homesickness—and that is for those of us lucky enough to have a home.

1問題の1つは、言うまでもなく、すべてがあまりにも急速に起きているということである。²5年前が今では古代史であり、昨日が今日の準備にはまずならない。³私たちには導いてくれる先例がないのである。⁴古典詩人のホメロスやウェルギリウスは旅について詠んだが、正午までに時間帯を11も横断する旅人については詠んでいない。⁵また遊牧民はいつも大地をあちこち移動してきたが、徒歩で、しかも季節や伝統のリズムに合わせて移動してきたのである。⁶移動性の新時代とはホームシックの新時代のことである。ただし、幸運にも家を持っている人にだけ言えることではあるが。

2 Five years ago が is の主語として用いられている。

□ ancient history 「古代史」 □ scarcely 「ほとんど…ない」

□ prepare A for B 「AにBの準備をさせる」

3 □ guide 「を導く」

4 but not ones crossing ... =but did not sing of ones crossing ... なお、crossing ... 以下は ones を修飾する現在分詞句で、ones は travelers の代用。

□ classical 「〈古代ギリシア・ローマの〉古典の」 □ Homer 「ホメロス」

□ Virgil 「ウェルギリウス」 □ time zone 「〈同一標準時を用いる〉時間帯」

5 but on foot ... =but have traveled on foot ...

□ earth 「陸地」 □ on foot 「徒歩で」 □ in tune with A 「Aと調子が合って」

□ rhythm 「リズム」 □ tradition 「伝統」

6 that is for those of us lucky enough to have a home の that はダッシュの前の文の内容を指している。lucky 以下は those を修飾する形容詞句で those は「人々」の意味。

第4段落

¹All of us are time travelers now, able to fly in less than a day from the 21st century (downtown Tokyo, for example) to the 13th (Bhutan, where costumes, houses and customs are maintained in strict medieval style). ²Tonight we can fly into the depths of the opposite season—or into the arms of a family we have not seen for 20 years. ³And the shrinking of distances in space may blind us to the more significant distances that remain: flying from Beirut to Beijing to Bogota on successive days—and finding the same services in each—we may underestimate the differences in values and assumptions. ⁴The truths of the village square do not extend across the global village.

1今や誰もが時間旅行者であり、24時間以内に21世紀(たとえば、東京の繁華街)から13世紀(衣服や家屋、習慣が厳密に中世の様式で維持されているブータン)まで飛ぶことができる。²今夜には反対の季節の真っ只中へも、また20年間会わなかつた家族の腕の中へも飛んで行くことができる。³そして、空間的な距離が縮まることで、私たちは今なお残るより意味のある距離が見えなくなっているのかもしれない。ベイルートから北京へ、さらにボゴタへと連日飛び、それぞれの場所で同じサービスを受けることで、価値観や当然とされていることの違いを軽んじているのかもしれない。⁴村の広場で正しいとされることが地球村の隅々にまで行き渡ることはない。

1 able 以下は are time travelers に対する補足説明。

□ Bhutan 「ブータン」 インド北東部、ヒマラヤ山脈中の王国。 □ strict 「厳密な」

- medieval 「中世の」
 - 2 we have not seen for 20 years は a family を修飾する関係代名詞節。
 - depth 「真最中」
 - 3 shrinking 「縮小, 縮み」 blind A to B 「AにBを見えなくする」
 - Beirut 「ベイルート」 レバノンの首都。 Beijing 「北京」 中華人民共和国の首都。
 - Bogota 「ボゴタ」 コロンビアの首都。 successive 「連続した」
 - underestimate 「を軽んじる, 過小評価する」 values 「価値観」
 - assumption 「当然とされていること, 想定」
 - 4 village square 「村の広場」 extend 「広がる, 届く」
 - global village 「地球村」 情報の共有化などによって 1つの村のようになった地球のこと。

第5段落

¹Thus traveling today can be like watching TV, channel surfing through a mass of images too fast to read and too various to sort. ²And traveling tomorrow, for those of us without a firm sense of neighborhood or community or home, may involve an even stronger sense of spiritual confusion. ³Our values like our bodies may be up in the air or lost in space. ⁴The only thing that can support the burden of our movement, after all, is a steady sense of stillness. ⁵“Though we travel the world over to find the beautiful, we must carry it with us or we find it not,” wrote the philosopher Emerson, who considered travel a “fool’s paradise.” ⁶The same is even truer of our sense of destination or home: whatever we find when we travel is only what we had inside us all along.

¹こうして、今日の旅はテレビを見ること、チャンネルを次々に換えてあまりに速すぎて読むことも、あまりに多様で分類することもできない大量の画像を見ることに似ている。²そして明日の旅は、近隣や地域社会、自分が本来いるべきところというしっかりした感覚を持たない者にとっては、精神的混乱というさらに強い感覚を伴うものかもしれない。³肉体同様私たちの価値観は宙に漂い、空間に消えてしまうことになるかもしれない。⁴そもそも、移動という負担を支えてくれるものは、静止しているという安定感だけなのである。⁵「私たちは美しいものを見つけようと世界中を旅しているが、美しいものは携えていなければならぬし、そうでなければ見つかることはない」と、旅とは「愚か者の楽園」であると考えた哲学者のエマソンは記した。⁶同じことは、旅先あるいは自分が本来いるべきところにいるという私たちの感覚にさらに当てはまる。旅するときに私たちが見つけるものは何であれ、いつも心の中に持っていたものにすぎないのである。

- 1 too fast to read and too various to sort は a mass of images を修飾する形容詞句で、too ... to do 「あまりに…なので～できない」の表現が用いられている。

channel surfing 「テレビのチャンネルを次々に切り換えること」

a mass of A 「大量の A」 various 「様々な」 sort 「を分類する」

2 firm 「しっかりした」 community 「地域社会」

home 「自分が本来いるべきところ」 今住んでいる場所や生まれた場所のことで、そこに属していることを強調して用いられている。

involve 「を伴う」 confusion 「混乱」

3 up in the air 「宙に漂って」

4 burden 「負担、重荷」 after all 「そもそも、何と言っても…だから」

a steady sense 「安定感」 stillness 「静止」

5 we find it not は古い英語で、we don't find it と同意。

travel A over 「Aをあちこち旅する」 the beautiful 「美しいもの」

carry A with one 「Aを持ち歩く、携行する」 paradise 「楽園」

6 even + 比較級 「いっそう…」 be true of A 「Aに当てはまる」

destination 「旅先、目的地」

解 答

問1 この能力が行動や世界の解釈の仕方における非対称につながることがある。

問2 (2a) エ. less (2b) ウ. Similarly (2c) イ. dull

問3 ウ

問4 被験者たちは、伝えられる内容と声の調子の両方の点から文の感情的内容を分類するよう求められる。

問5 左耳による判断がより優れている傾向が少しでもあれば、それはその作業に右半球がより多く関わっている証拠と解釈される。

問6 (6a) left (6b) right (6c) right

▶ 設問解説 ◀

問1 These は前文の different cognitive capacities を指す。in behavior と in the way in which we interpret the world が and で結ばれている。in which 以下は the way を修飾する関係代名詞節。なお, can は可能性を表しているので、「…することがある／…しかねない」と訳出する。

- lead to A 「Aに通じる、つながる」
- asymmetry 「非対称」
- behavior 「行動」
- interpret 「を解釈する」

問2 (2a) 前の文にある some sentences と比べて、空所(2a)を含む文の other sentences がどのような内容の文なのかに注目する。「賞を取った」とか「太陽が輝いている」という文に比べて「ギャンブルで金をすった」とか「雨が激しく降っている」という文は「暗い内容」の文であることがわかるので、「前の文ほど cheerful ではない」という意味になるようにする。

ア.「極めて…」イ.「より…」ウ.「同じだけ…」エ.「より…でない」

(2b) 空所を含む文の末尾に、前の文で使われている in a cheerful tone of voice という表現があることに注目する。この 2 文ではどちらも「普通は暗い内容の文でも、場合によって明るく読まれることがある」という内容を表しているので、ウが正解。

ア.「しかし」イ.「そうではなくて」ウ.「同様に」エ.「したがって」

(2c) 空所を含む文では、「脳に損傷を受けた患者の発話内容は感情的に起伏が

なく、損傷を受ける前のようなふさわしい変化や抑揚を欠いている」と述べた後で「そういった発話がどのように聞こえるのか」を述べている。次の文で「実際、言語のより創造的な要素が欠落していることがうかがえる」と述べられていることから判断する。

ア.「おもしろい」イ.「単調な」ウ.「感情の」エ.「正常な」

問3 下線部(3)は「文はさまざまな声の調子で読まれるが、その調子は文の内容に一致していたり反してたりする」という意味である。したがって、「内容に関わりなく明るい調子で読まれたり、暗い調子で読まれたりする」ことになるので、ウが正解。なお, which 以下は different tones of voice を補足説明する非制限用法の関係代名詞節。

- different A 「さまざまA」
- tone 「調子、トーン」
- either X or Y 「XかYのいずれか」
- be consistent with A 「Aと一致している、矛盾しない」
- in opposition to A 「Aと対立して」

問4 全体の文の構造は, ask O to do 「Oに…するように求める」が受動態になったもの。ここでの主語の Subjects は「被験者、実験対象」の意味であることに注意。both 以下は categorize を修飾する副詞句で, both X and Y 「XとYの両方とも」の X に in terms of the message that is conveyed, Y に (in terms of) the tone of voice がきていると考えるとよい。なお, that is conveyed は the message を修飾する関係代名詞節。

- categorize 「を分類する」
- emotional 「感情の、情緒の」
- content 「内容」
- in terms of A 「Aの観点から」
- convey 「を伝える」

問5 全体の文の構造は take O as C 「OをCだとみなす、解釈する」が受動態になったもの。bias towards A で「Aへの傾向、偏り」の意味だが、ここでは superior judgments from the left ear が A となっている。increased right-hemisphere involvement は、「増加した右半球の関わり」が直訳であるが、「右半球の関わりが増えること」とするとより自然な訳になる。

- any A 「〈肯定文で〉どんなAでも」
- superior 「より優れている」
- judgment 「判断」
- evidence 「証拠」
- involvement in A 「Aとの関わり」
- task 「作業」

問6 空所(6a)(6b)を含む文は「この種の実験では、(6a)の耳の方が声の調子を判断するのに優れており、(6b)の耳の方が言葉の中身を判断するのに優れている」という意味である。第 2 段落第 1 文には、脳の右半球は「話をする際の声の感情的な調子を解釈するのがうまい」とあり、第 3 段落第 3 文には「左耳が脳の右半球とより密接に関連している」とあるので、「左耳の方が声の調子に

関する判断が優れている」ことになる。したがって、(6a)には left が入る。また、それと対比的になる(6b)には right が入る。

空所(6c)を含む文は「(6c)半球に損傷を受け脳に障害を負った患者は、そのように話し言葉から感情の状態を解釈することに苦労する」という意味である。第2段落第1文および第4段落第4文から、話し言葉から感情の調子を判断するのが優れているのは脳の右半球であることがわかるので、(6c)には right が入る。

語彙問題

論説文でも特に自然科学や心理学など理系のトピックを扱った文章では、筆者がある事実を裏づけるために、実験や調査などを紹介することが多い。このような場合、その実験・調査の「方法」、「結果」を正確に読み取る必要がある。本問では、「脳の右半球の方が発話中の感情を解釈するのに優れている」ことを裏づける実験が第2, 3段落で紹介されており、問3が実験の「方法」を、問6が実験の「結果」について、内容の理解を問うている。

要約

人間の脳は左半球と右半球で認識機能が異なっていて、そのため行動や世界の解釈の仕方が異なるようである。実験などから、右半球の方が左半球よりも発話中の感情を解釈するのに優れていることがわかっている。(99字)

構文・語句解説

第1段落

¹We know that the two cerebral hemispheres of the brain have different cognitive capacities. ²These can lead to asymmetries in behavior and in the way in which we interpret the world. ³Many studies suggest that the right hemisphere of the brain is more involved in the perception of emotion and in its expression than the left hemisphere of the brain.

¹脳の2つの大脳半球が異なる認識能力を持っていることを私たちは知っている。²この能力が行動や世界の解釈の仕方における非対称につながることがある。³脳の右半球が左半球よりも感情の認識や表現により多く関与していることを多くの研究が示唆している。

1 capacity 「能力」

- 3 study 「研究、調査」 suggest that 節「…ということを示唆する」
- be involved in A 「Aに関わっている」 perception 「認識、理解」
- emotion 「感情、情緒」 expression 「表現」

第2段落

¹In relation to language, the right hemisphere of the brain is better at interpreting the emotional tone of voice in speech. ²A typical experiment illustrates this. ³It uses some sentences with a happy message like "She won a prize" or "The sun is shining." ⁴Other sentences are less cheerful; "He lost all his money gambling" or "It is raining very heavily," and yet other sentences are neutral with no particular emotional content. ⁵They are read in different tones of voice, which are either consistent with the sentence's message or in opposition to it. ⁶Although in principle to lose money gambling is unpleasant, if it had happened to a great enemy it might nevertheless induce some sensation of pleasure, and it is possible to read the sentence "He lost all his money gambling" in a cheerful tone of voice. ⁷Similarly, some Californians have an unusual enthusiasm for rain and it is possible to read the sentence "It is cold and rainy" in a cheerful tone of voice.

¹言語に関しては、脳の右半球の方が、話をする際の声の感情的な調子を解釈するのがうまい。²典型的な実験がこのことを例証している。³実験には「彼女が賞をとったよ」とか「太陽が輝いている」といった明るい伝達内容を持った文がいくつか使われる。⁴他には「彼はギャンブルで金を全部すってしまった」とか「雨がとても激しく降っている」といった、それほど楽しくない内容の文もあるし、さらにまた特に感情的な内容を持たない中立的な文もある。⁵これらの文はさまざまな声の調子で読まれるが、その調子は文の伝達内容に一致していたり反してたりする。⁶ギャンブルでお金を失うことは原則として不愉快なことだが、それにもかかわらず、それがひどく敵対関係にある人に起きたとすれば、何らかの快感を引き出すかもしれません、「彼はギャンブルで金を全部すってしまった」という文を明るい声の調子で読むこともできる。⁷同様に、カリフォルニアに住む人の中には雨に対して珍しいほど強い関心を持っている人がいて、「寒いし雨がよく降るね」という文を明るい声の調子で読むこともできる。

- 1 in relation to A 「Aに関して」
- be good at doing 「…するのが上手である、得意である」 speech 「話し言葉／発話」
- 2 typical 「典型的な」 experiment 「実験」 illustrate 「を説明する、例証する」
- 3 prize 「賞」

- 4 cheerful 「楽しい、 楽観的な」 lose O (in) *doing* 「…してOを浪費する」
 gamble 「ギャンブルをする」 heavily 「(雨が)激しく、 多量に」
 yet other A 「さらに他のA」 neutral 「中立的な」 particular 「特別な」

6 Although 節内では to lose money gambling が主語となっている。

if it ... of pleasure において, if it ... great enemy が仮定法過去完了の条件節, it might ... of pleasure が仮定法過去の帰結節となっている。

- in principle 「原則として」 unpleasant 「不愉快な, 楽しくない」
 - happen to A 「〈出来事などが〉Aに起きる, 生じる」 enemy 「敵対関係にある人」
 - nevertheless 「それにもかかわらず」 induce 「を誘引する, 誘発する」
 - sensation 「感情」

7 similarly 「同様に」 Californian 「カリフォルニアの人」

 - unusual 「珍しいほどの, まれな」 enthusiasm 「強い関心, 热意」

第3段落

¹Subjects are asked to categorize the emotional content of the sentence both in terms of the message that is conveyed and the tone of voice. ²Two sentences are presented at the same moment, one played to the right ear and one played to the left ear, in a listening set-up. ³Since the connections that the left ear makes with the right hemisphere are stronger than the connections the right ear makes with the right hemisphere, any bias towards superior judgments from the left ear is taken as evidence of increased right-hemisphere involvement in the task. ⁴In this kind of experiment, the left ear is better at making judgments about the tone of voice, whereas the right ear is better at judging verbal content.

¹被験者たちは、伝えられる内容と声の調子の両方の点から文の感情的内容を分類するよう求められる。²2つの文がリスニング用の装置で同時に提示され、1つは右の耳に1つは左の耳に聞こえるようにしてある。³左耳が右半球と作っている関係の方が右耳が右半球と作っている関係よりも強いので、左耳による判断がより優れている傾向が少しでもあれば、それはその作業に右半球がより多く関わっている証拠と解釈される。⁴この種の実験では、左耳の方が声の調子を判断するのに優れているのに対して、右耳の方が言葉の中身を判断するのに優れている。

2 one played ... left ear は付帯状況の分詞構文。one は one of the two sentences の意味。

- present 「を提示する」 listening set-up 「リスニング用の装置、設備」

- 4 □ whereas S V ... 「ところが一方…」 □ verbal 「言葉の」

第4段落

¹Brain-damaged patients who have sustained injuries to the right hemisphere have difficulty in making such interpretations of emotional mood from speech. ²Their language and communicative systems appear relatively normal, in terms of being able to say roughly what they want to say, but the content of their speech is often emotionally flat, lacking its previous variation and modulation and sounding rather dull. ³In fact, it is suggested that the more creative elements in language are absent. ⁴Some of the connotative associations of language may be influenced by the right hemisphere.

¹右半球に損傷を受け脳に障害を負った患者は、そのように話し言葉から感情の状態を解釈することに苦労する。²こうした患者の言語と伝達の体系は、自分の言いたいことを大まかには言うことができるという点では比較的正常なように見えるが、発話の内容は感情的に起伏がないことが多く、損傷を受ける前の変化や抑揚を欠き、かなり単調に聞こえる。³実際、言語のより創造的な要素が欠落していることがうかがえる。⁴言外の意味の連想の一部は右半球に影響されているかもしれない。

- 1 brain-damaged 「脳に損傷を負った」 patient 「患者」

sustain 「〈損害・傷害など〉を被る、 受ける／を維持する」 injury 「けが」

have difficulty in *doing* 「…するのに苦労する」 interpretation 「解釈」

mood 「気分」

2 lacking its ... and modulation と sounding rather dull の 2 つの分詞構文が and で結ばれていく。

communicative 「意思伝達の、 コミュニケーションの」

appear C 「C のように見える、 思える」 relatively 「比較的、 相対的に」

roughly 「大ざっぱに、 おおまかに」 flat 「起伏のない」 lack 「を欠く」

previous 「以前の」 variation 「変化」 sound C 「C のように聞こえる」

3 in fact 「実際、 実は」 creative 「創造的な」 element 「要素」

absent 「ない、 欠けている」

4 association 「連想」 influence 「に影響する」

解 答

- 問1 彼は学長になったとき、自分は神によって命じられたのであり、自分はその地位にふさわしいのだ、と確信した。
- 問2 妻がアルツハイマー病の兆候を見せ始めたこと。(22字)
- 問3 妻の介護のために学長の職を辞すること。(19字)
- 問4 約束は仕事よりも重要であるということ。(19字)
- 問5 イ. interfere with
- 問6 彼は現実主義者たちに、今では物忘れがひどい彼女の中に自分が何年も前に結婚した同じすてきな女性を認められる、とわかつてもらった。
- 問7 ア

▶▶ 設問解説 ◀◀

- 問1 be convinced that 節「…だと確信する」の that 節内において、was called ... と was worthy ... が and で結ばれている。ここでの call は「〈神が〉〈天職に〉召す」の意味である。また、that position とは the president の地位を指している。
- president 「学長」 be worthy of A 「Aに値する」
- 問2 tragedy は「悲劇」という意味。その内容は続く第4段落第2文 His wife ... Alzheimer's disease. に述べられている。
- 問3 下線部(3)は「彼がやろうとしていること」という意味。第5～7段落第1文に「彼は決意した」とあり、続く第2文に、その決意の内容が具体的に述べられている。
- 問4 下線部(4)は「彼(マックウィルキン)は神がやるように命じたことから去ろうとしている、と言う信心深い人」という意味である。このような人たちに対するロバートソン・マックウィルキンの答えは、第8・9段落第6文コロン(:)以下に述べられている。There is ... a promise. を制限字数に留意してまとめる。
- religious 「信心深い」 call O to do 「Oに…するように命じる、召す」
- 問5 空所(5)の直前に「彼(マックウィルキン)は神がやるように命じたことから去ろうとしている、と言う信心深い人もいた」と述べられている。したがって、「彼

の妻に対する気遣いという私的なことが、社会的責任をどのようなものにすれば、信心深い人たちの主張にあうのか」を考えればよい。したがって、イが正解。

ア.「に専念する」イ.「を妨げる」ウ.「に役立つ」エ.「を取り上げる」

- 問6 主語の he は同じ第8・9段落第1文の The man つまり Robertson McQuilken を指す。let O know は「Oに…を知らせる」という意味なので、「彼(マックウィルキン)は彼らにわかつてもらった」となる。したがって、them とはマックウィルキンが答えた相手、つまり第8・9段落第2文の the realists を指す。that he ... years ago は know の目的語となる名詞節であり、その節内は he(S) recognized(V) the same lovely woman(O) という構造。また、he had ... years ago は woman を修飾する関係代名詞節。
- recognize 「を認める、を(それと)識別する」 now-forgetful 「今では物忘れがひどい」
- 問7 ア.「ロバートソンは大学の学長になるという夢を実現させるのに成功した」第2・3段落第1, 2文の内容に一致。
 イ.「ロバートソンは早めに辞職したいという夢を持っていたが、彼の夢は実現した」第2・3段落第1, 2文の内容に不一致。
 ウ.「ロバートソン・マックウィルキンは重い病気になったために仕事を辞めた」第5～7段落第2文の内容に不一致。
 エ.「現実主義者は、ロバートソン・マックウィルキンが無責任で利己的だと言った」第5～7段落第4, 5文の内容に不一致。

【参考】物語文

物語文は、論説文とは違って、展開を予測しづらい。したがって、登場人物の関係を正確に押さえ、誰の発話であるかに留意しながら話の流れ—誰が何をし、どのようになったか、どのように思ったのか—を捉えることがポイント。また、同じ登場人物が他の登場人物との関係から、さまざまな呼び方をされることが多いので、注意することが必要。一方、物語文では受験生になじみのない語いや表現が用いられることがあるが、問題になっていない限り、特に細部にとらわれる必要はない。受験生によっては、登場人物の心理の深読みや感情移入をしてしまい、展開が追えなくなってしまうこともあるので、与えられた英文を素直に読むようにしたい。

要 約

マックウィルキンは、アルツハイマー病になった妻の介護のため、大学の学長職を辞した。彼は結婚の際の約束が何よりも重要であると考え、自分のことを認識できなくなった妻を最後

まで介護しようと決意したのだった。(100字)

▷ 構文・語句解説 ◁

第1段落

¹One of the most remarkable stories I know is about a man called Robertson McQuilken. ²As a young man, he dreamed of becoming the president of Columbia Bible College in Columbia, South Carolina. ³He adored his father, who had held this position, and he hoped to take his father's place someday.

¹私の知っている最もすばらしい話の1つはロバートソン・マックUILキンと呼ばれる男に関するものである。²若い頃、彼はサウスカロライナのコロンビアにあるコロンビア・バイブル・カレッジの学長になることを夢見ていた。³彼は以前この地位にあった父を敬愛していた。そして自分もいつか父と同じ立場に立ちたいと思っていた。

¹I know は the most remarkable stories を修飾する関係代名詞節。

remarkable 「注目すべき」

²As a young man の As は「…のときに、…の頃」という意味。

dream of doing 「…することを夢見る」

³ adore 「を敬愛する」 position 「立場、地位」 (=place) someday 「いつか」

第2・3段落

¹Robertson McQuilken's dream came true. ²One day he did become the president of Columbia Bible College. ³When he became the president, he was convinced that he was called by God and was worthy of that position.

⁴Dr. McQuilken served as president of that college for a number of years, and he did very well and was respected and loved by many people.

¹ロバートソン・マックUILキンの夢は実現した。²ある日彼は実際にコロンビア・バイブル・カレッジの学長になったのだ。³彼は学長になったとき、自分は神によって命じられたのであり、自分はその地位にふさわしいのだ、と確信した。

⁴マックUILキン博士は何年もの間その大学の学長として務め、実績を上げ、多くの人に尊敬され愛された。

come true 「実現する」

did become の did は動詞強調の助動詞。

⁴did very well と was respected ... many people が and で結ばれている。後半の受動態の部分は、respected と loved が and で結ばれている。

serve as A 「Aとして務める」 a number of A 「いくつかのA、多くのA」

do well 「うまくいく、成功する」

第4段落

¹Then one day this man realized he had a tragedy on his hands. ²His wife began to show the symptoms of Alzheimer's disease. ³She became worse in a short time, and in a matter of months she was in a terrible situation. ⁴She not only lost her memory of much of their life together, but she was unable to even recognize him. ⁵She lost all awareness that he was her husband.

¹それからある日、この男は悲劇に直面していることに気づいた。²妻がアルツハイマー病の兆候を見せ始めたのだ。³彼女の症状はすぐに悪化し、わずか数ヶ月のうちに深刻な状況に陥った。⁴彼女は二人で過ごした生活の多くの記憶を失ったばかりでなく、彼のことを認識することができなくなってしまった。⁵彼女は彼が自分の夫だという意識を失ったのだ。

have A on one's hands 「Aに直面している」

symptom 「兆候」 Alzheimer's disease 「アルツハイマー病」

a matter of A 「ほんのA、わずかなA」 terrible 「ひどく悪い」

situation 「状況」

not only X but (also) Y 「XだけでなくYも」 memory 「記憶」

⁵that 以下は awareness と同格の名詞節。 awareness 「意識」

第5～7段落

¹Robertson McQuilken made his decision. ²He resigned the presidency of the college so he could give full-time care to his wife. ³Without hesitation, he walked away from his job as an act of love for her.

⁴There were some realists who told him there was no meaning in what he was doing.

⁵Anybody could take care of his poor wife, they told him, but not anybody could be president of the college. ⁶And after all, she didn't even recognize him when he came in the room to help her.

"Then there were some religious people who said he was walking away from what God called him to do. ⁸He was letting his personal concern for his wife interfere with his more important social responsibility, they said.

¹ロバートソン・マックウィルキンは決意した。²彼は妻の世話を1日じゅうできるように大学の学長の職を辞めた。³ためらいもなく彼は妻への愛の行為として職場を去った。

⁴彼がやろうとしていることには何も意味がないと彼に言う現実主義者もいた。⁵誰にでもかいそうな彼の妻の世話はできるが、誰もが大学の学長になれるわけではない、と彼らは言つた。⁶そしてそもそも彼女は彼が世話をしようと部屋に入っていっても、彼のことさえわからぬいのだ。

⁷それから彼は神がやるように命じたことから去ろうとしていると言う信心深い人もいた。⁸彼は妻に対する気遣いという私的なことによって、もっと重大な社会的責任が果たせなくなっている、と彼らは言った。

1 make one's decision 「決意する」

2 resign 「を辞職する」 presidency 「学長の地位」

so (that) S can do 「Sが…するために」 full-time 「専従の」

3 hesitation 「ためらい、躊躇」 act 「行為」

4 realist 「現実主義者」 there is no meaning in A 「Aには意味がない」

5 Anybody could ... の Anybody は肯定文で使われているので「誰でも、どんな人でも」の意。

Anybody could ... , they told him, but not ... =They told him (that) anybody could ... , but not ...

poor 「かわいそうな、哀れな」

6 after all 「そもそも、何と言っても…だから」

8 let O do 「Oが…するままにしておく」 concern 「気遣い」 responsibility 「責任」

第8。9段落

¹The man's answers were magnificent. ²To the realists he admitted that his wife didn't know who he was. ³But that wasn't important, he told them. ⁴The really important thing was that he still knew who she was and, furthermore, he let them know that he recognized in her now-forgetful self the same lovely woman he had married those many years ago.

⁵Then he turned to the religious people. ⁶His words to them were even more profound: "There is only one thing more important than your job. ⁷And that is a promise. ⁸And I

promised to be there for 'until death do us part.'"

¹その男の答えはすばらしかった。²現実主義者に対しては、彼は妻が彼のことを誰であるかわからないということを認めた。³しかし、そんなことは重要ではない、と彼は言った。⁴本当に重要なのは、彼女が誰であるのか自分はまだ知っているということなのだ。そのうえ、彼は現実主義者たちに、今では物忘れがひどい彼女の中に自分が何年も前に結婚した同じすてきな女性を認められる、とわかってもらった。

⁵それから彼は信心深い人たちの方を向いた。⁶彼らに対する言葉はよりいっそう感銘深いものであった。「仕事より大切なものがたった1つあるのです。⁷そしてそれは約束です。⁸そして私は彼女に、死が二人を分かつまで一緒にいる、と約束したのです」

1 magnificent 「すばらしい」

2 admit that 節 「…だと認める」

4 that he ... she was は補語となる名詞節。

furthermore 「そのうえ、さらに」

5 turn to A 「Aの方を向く」

6 even + 比較級 「いっそう…」 profound 「感銘深い」

7 promise 「約束(する)」

解説

- 問1 しかし、環境に優しい暮らしをするためには、自分の生活を完全に変えなければならない、というのは正しくない。
- 問2 only does recycling save energy
- 問3 リサイクルされた資源から作られた製品を買うことは、廃棄物をリサイクルするのと同じくらい大切なことである。
- 問4 エ. relieve traffic congestion
- 問5 ウ
- 問6 むだにスイッチが入っているかもしれない照明やその他の器具にいかに多くのエネルギーが浪費されているかに注意してみよう。

▶ 設問解説 ◀

- 問1 下線部(1)が Yet 「しかし」によって前の文と逆接的につながっていること、また直後の文で「環境に優しい暮らしを築くことはとても簡単に始められる」と述べられていることから、this は直前の文の to have ... life completely の内容を指すと考えられる。
- 問2 Not が文頭に与えられていること、また、後ろに but と also があることから、not only X but also Y 「X だけでなく Y も」の前半を作ればよいと考えられる。Not only のような否定の副詞表現が文頭に置かれると倒置が生じるので、Not only does recycling save energy とすると「リサイクルはエネルギーを節約するだけでなく」という意味になり、後続部分にうまくつながる。
- recycle 「をリサイクルする」 save 「を節約する」
- 問3 文全体が X is as ... as Y 「XはYと同じくらい…だ」という同等比較の文で、X と Y がともに動名詞句になっている。主語となる動名詞句 Buying products made from recycled materials においては、過去分詞句 made from recycled materials が products を修飾し、recycled が materials を修飾している。
- product 「製品」 material 「物質、資源／物質的な」 waste 「廃棄物」
- 問4 空所(4)の前で Alternative transportation がもたらす「環境に優しい」点が 2つ続けて述べられていることに注目する。空所(4)の直前に and があることか

ら、この空所にも「環境に優しい」内容が入ることがわかる。したがって、正解はエ。

ア.「車の生産を増やす」イ.「車での旅行を奨励する」ウ.「より多くの交通渋滞を引き起こす」エ.「交通渋滞を緩和する」

問5 下線部(5)は「上で概説されている手段」という意味であり、第2段落から第5段落で述べられている「エネルギーと物質の消費を減らすための手段」を指す。アについては第2段落で、イについては第3段落で、エについては第5段落で、それぞれ述べられている。公共交通機関と自転車については第4段落で述べられているが、公共交通機関を使うことと自転車を使うことの両方が奨励されているので、ウは述べられていない。

step 「手段／段階」 outline 「を概説する」

問6 Notice で始まる命令文であり、notice の目的語が how much ... running needlessly の疑問詞節である。その節内の構造は how much energy(S) is being wasted(V) であり、waste A on B 「BにAを浪費する」の受動態が進行形で用いられている。that 以下は lights or other appliances を修飾する関係代名詞節。

notice 「に注意する」 appliance 「(電気)器具」
 run 「(機械など)動く、作動する」 needlessly 「不需要に、むだに」

解説

論説文では、文章の初めの方で主題が提示され、その主題をめぐって論が展開していくことが多い。したがって、最初の1~2段落は、何が主題であるかを探りながら丁寧に読む必要がある。本問では、第1段落で「環境に優しい暮らしを築くのは簡単だ」と述べた後、第2段落以降で、段落ごとにそのための手段を1つずつ紹介している。

要約

環境に優しい暮らし方のためには、資源のリサイクル、リサイクル製品の購入、代替交通手段の利用、食物連鎖の下位にある食品の摂取を行うのも大切だが、まずは身の回りでむだに使われている電気を節約することだ。(99字)

▶ 構文・語句解説 ◀

第1段落

¹“Live simply so that others may simply live.” ²Perhaps you have seen these words on a bumper sticker, or maybe you have heard someone speak them aloud. ³These words

are the essence of living sustainably. ⁴It may seem that to have a sustainable lifestyle, you would have to change your life completely. ⁵Yet this is not true. ⁶You can begin to create a sustainable lifestyle very easily. ⁷You can choose a simpler lifestyle by reducing your energy and material consumption.

「他の人が生きていけるように、質素に暮らそう」²ひょっとするとあなたはこの言葉がバンパーのステッカーに書かれているのを見たことがあるかもしれないし、誰かがこの言葉を口にするのを聞いたことがあるかもしれない。³この言葉は環境に優しく暮らすことの本質である。⁴環境に優しい暮らしをするためには、自分の生活を完全に変えなければならないようと思えるかもしれない。⁵しかし、これは正しくない。⁶環境に優しい暮らしを築くことはとても簡単に始められる。⁷エネルギーと物の消費を減らすことで、より質素な暮らし方を選ぶことができるのである。

1 Live simply so that others may simply live. は、直訳的には「他人がただ単に生きていくことができるため質素に暮らしなさい」という意味。最初の simply は「質素に」の意味であり、後の simply は「ただ単に」の意味。

so that S may do 「Sが…するために」

2 bumper sticker 「車のバンパーのステッカー」 hear O do 「Oが…するのを聞く」

aloud 「声に出して」

3 essence 「本質、エッセンス」

sustainably 「環境に優しく、持続可能な形で」 詳しく言えば「環境や資源を保全し、現在と将来の世代と共に満たすようなやり方で」という意味。

4 to have a sustainable lifestyle は目的を表す副詞用法の不定詞で、you would 以下を修飾している。

It seems that 節「…のようである」 completely 「完全に」

7 reduce 「を減らす」 energy and material consumption 「エネルギーと物の消費」

第2段落

¹Probably one of the easiest ways to reduce your energy consumption is to recycle. ²The amount of energy saved by recycling one glass bottle would light a 100-watt light bulb for 4 hours. ³Not only does recycling save energy because new bottles need not be manufactured, but it also saves natural resources and reduces the amount of garbage that must be carried and dumped into landfills. ⁴You can recycle many materials including glass, most plastics, cardboard, white paper, newspaper, aluminum cans, tin cans, grocery

bags, and magazines. ⁵Many cities have organized curbside pickup for recycling. ⁶If this program does not exist in your area, you can take your recyclable materials⁷ to recycling centers.

¹たぶん、エネルギーの消費を減らす最も簡単な方法の1つは、リサイクルすることであろう。²1本のガラスびんをリサイクルすることで節約されるエネルギーの量で、100ワットの電球を4時間ともすことができるだろう。³リサイクルは、新しいびんを作る必要がなくなるという理由でエネルギーを節約するばかりでなく、天然資源を節約したり、ごみ処理場に運んで捨てなければならないごみの量を減らしたりもするのである。⁴ガラス、ほとんどのプラスチック製品、段ボール、白色紙、新聞、アルミ缶、スチール缶、食料品を入れる袋、そして雑誌類を含む多くの資源をリサイクルすることができる。⁵多くの都市では道路わきでリサイクルのための回収が組織的に行われてきている。⁶こういう計画が自分の住んでいる地区になければ、リサイクル可能な物をリサイクルセンターに持つていけばよい。

glass bottle 「ガラスのびん」 light 「〈照明〉をつける、点灯する」

light bulb 「電球」

manufacture 「を製造する」 natural resources 「天然資源」 garbage 「ごみ」

dump 「〈ごみなど〉を捨てる」

including A 「Aを含めて」 cardboard 「段ボール」

tin can 「スチール缶、ブリキ缶」 grocery bag 「食料品を入れる袋」

organize 「を組織的に行う」 pickup 「回収」

6 this program は直前の文に述べられている「リサイクルのために道路わきで回収を行う組織的な計画」を指す。

recyclable 「リサイクル可能な」

第3段落

¹Buying products made from recycled materials is as important as recycling wastes.

²Some products made from recycled wastes include writing paper, greeting cards, packaging materials, tissue, boxes, and plastic containers. ³By choosing products made from recycled materials, you have completed the recycling cycle.

¹リサイクルされた資源から作られた製品を買うことは、廃棄物をリサイクルするのと同じくらい大切なことである。²リサイクルされた廃物から作られた製品には便箋、グリーティング

カード、包装用資材、ティッシュ、箱、プラスチック容器が含まれる。³リサイクルされた資源から作られた製品を選ぶことで、リサイクルの循環を完全なものにすることになる。

2 include 「を含む」 writing paper 「便箋／レポート用紙」

greeting card 「グリーティングカード、あいさつ状」

packaging materials 「包装用資材、包装材料」

3 complete 「を完成させる、終える」 recycling cycle 「リサイクルの循環」

第4段落

¹Sustainable living also includes your choice for a mode of transportation. ²Choose to take public transportation, ride a bike, or car-pool as your main method of transportation. ³Now is the time to develop an environmentally conscious approach to transportation that may establish a lifelong pattern. ⁴Alternative transportation will not only save energy, but it will also reduce the amount of pollution released into the atmosphere and relieve traffic congestion.

¹環境に優しい暮らし方には交通手段の選択も含まれる。²主な交通手段として、公共交通機関を利用し、自転車に乗り、車に相乗りすることにしよう。³今こそ生涯にわたって続くパターンになるかもしれない、環境を意識した交通への取り組みを始める時である。⁴従来のものに代わる交通手段はエネルギーを節約するばかりでなく、大気中に放出される汚染物質の量を減らしたり、交通渋滞を緩和したりもする。

1 mode of transportation 「交通手段」

2 choose to do 「…することに決める」

take public transportation 「公共交通機関を利用する」 bike 「自転車」 (=bicycle)

3 Now is the time to do 「今こそ…すべき時である」 develop 「を開発する、身につける」

environmentally conscious 「環境を意識した」

approach to A 「Aへの取り組み、アプローチ」 establish 「を確立する」

lifelong 「一生にわたる」

4 alternative 「従来のものに代わる、代替的な」 pollution 「汚染物質」

release A into B 「AをBの中へ放出する」 traffic congestion 「交通渋滞」

第5段落

¹The food you choose to eat can also reduce energy use and material impact on the

environment. ²If you choose to eat foods that are lower on the food chain, you decrease the energy cost of producing the foods. ³You may decide to eat less meat or to eat more foods grown organically.

¹あなたが食べることにする食品もエネルギーの使用と環境に対する物質面での影響を減らすことができる。²食物連鎖のより下位にある食品を食べることにすれば、食品をつくるのに必要なエネルギーの費用を減らすことになる。³肉を食べるのを控えるか、有機栽培された食品をより多く食べることにすればよい。

¹you choose to eat は The food を修飾する関係代名詞節。

impact on A 「Aへの影響」

2 food chain 「食物連鎖」

3 grow 「〈農作物〉を栽培する」 organically 「有機栽培で、無農薬で」

第6段落

¹You probably cannot immediately implement most of the steps outlined above.

²However, this you can do right now. ³Look around the area where you are currently sitting. ⁴Notice how much energy is being wasted on lights or other appliances that may be running needlessly. ⁵What can you do about it? ⁶Remember to turn off electrical appliances and lights that are not in use.

¹上で概説したような手段のほとんどは、おそらくすぐには実行することはできないだろう。²しかし、次のことは今すぐにできる。³今すわっている場所の周りを見回してみよう。⁴むだにスイッチが入っているかもしれない照明やその他の器具にいかに多くのエネルギーが浪費されているかに注意してみよう。⁵それについて自分に何ができるだろうか。⁶使っていない電気器具や照明は忘れずにスイッチを切ろう。

1 implement 「を実行する」

2 do の目的語の this が主語の前に移動している。

right now 「今すぐに」

3 look around A 「Aを見回す」 currently 「今、現在」

6 remember to do 「忘れずに…する」 turn A off 「Aのスイッチを切る」

be in use 「使われている、使用中である」

解 答

- 問1 生命の歴史の中で、それほど急速な発達を遂げたと知られている器官は他にない。
- 問2 エ. A change of climate that set in about two million years ago
- 問3 非常に多くの水が氷という形で陸地に閉じ込められたため、地球の海洋の水位は300フィート下がった。
- 問4 アフリカからアラビアを越え、北に向かい、アジアへと東に、ヨーロッパへと西に、移動したこと。(45字)
- 問5 such inventive and imaginative acts could human beings survive
- 問6 エ

▶▷ 設問解説 ◀◀

問1 否定語 + as + 原級 + as … 「…ほど～なものはない」という表現の as … が省略されている。as the brain と補うことができる。訳出上は「それほど～なものはない」でよい。is known to have grown は述語動詞 is が現在形なのに対して、不定詞句の内容が過去から現在に至る時間に及ぶことなので完了形になっている。

organ 「器官」 be known to do 「…すると知られている」

問2 空所(2)を含む文は、直前の文で提示された問い合わせ「どのような圧力が人間の脳の爆発的な発達を生み出したのだろう」に対する答えとなる可能性があるものを述べた文である。第2段落第3文以降で「同時期が氷河時代であった」ことが述べられ、第4～7段落で「氷河時代を生き延びるために人間は創意工夫しなければならなかった」ということが述べられている。したがって、「気候」に関するものを選ぶ。

- ア. 「最初の氷河期に定着した衣服の着用という習慣」
 イ. 「人間が恐竜と戦わなければならなかったという事実」
 ウ. 「言語の発明と道具の使用」
 エ. 「およそ200万年前に始まった気候の変化」

問3 so ... that ~ 「とても…なので～、～するほど…」の構文である。このように so と that 以下が離れている場合は、見落としがちなので注意が必要。なお、

by three hundred feet の by は程度・差を表し「…だけ」という意味。

lock A up 「Aを閉じ込む」 in the form of A 「Aという形で」

問4 第3・4段落第3文に The movements of humans とあり、これを具体的に述べたのが第6文である。

問5 Only by が文頭にきているため、倒置が起きる。また、第6段落第1文に「そのような困難な時に、工夫と創意に富んでいることはとても価値があった」とあり、第4文には「どの世代でも、力と勇気と創造性を備えた者が氷河時代を生き延びる可能性が高かった」とあることから、「そのような創意に富み想像力あふれる行為によってはじめて人間は寒い気候を生き延びることができた」という意味の英文が求められている。

inventive 「創意に富む」 imaginative 「想像力あふれる」 act 「行為」
 survive 「(を)生き延びる」

問6 ア.「人間の脳の発達の割合はおよそ50万年前にピークを迎えた」第1段落第3文の内容に一致。

イ.「200万年前に氷河時代が始まった後、北方に広大な領域の氷ができるのにおよそ100万年かかった」第2段落第4文の内容に一致。

ウ.「工夫や創意にそれほど富んでいないものは、氷河時代を生き延びることはできなかった」第6段落第4文の内容に一致。

エ.「氷河時代の人間は1億年前の小型哺乳動物と共通点は何もなかった」第7段落第2、3文の内容と不一致。

A section header with a small icon.

論説文中の疑問文には注意する必要がある。疑問文という形で筆者が読み手に問題を投げかけ、これが以下の内容の主題になることが多いからである。本問では、第2段落第1文の疑問文で提示された「どのような圧力が人間の脳の発達を生み出したのか」という問題に対して、「寒冷化という要因の可能性」が第2段落で述べられ、さらに第3段落第2文の疑問文で提示された「脳の拡大と寒冷化が同時期であったのは意味のあることなのか、偶然なのか」という問題をめぐって、そこから後ろでは論が展開している。

要 約

およそ100万年前から人間の脳が急速に発達したのは、同時期の氷河時代を生き延びるために人間は創意工夫しなければならなかったからである。(65字)

▶ 構文・語句解説 ◀

第1段落

¹Starting about one million years ago, there was an increase in the growth of the human brain. ²It expanded at first at the rate of one cubic inch every hundred thousand years; then the growth rate doubled; it doubled again; and finally it doubled once more. ³Five hundred thousand years ago the rate of growth hit its peak. ⁴At that time the brain was expanding at a rate of ten cubic inches every hundred thousand years. ⁵No other organ in the history of life is known to have grown as fast.

¹およそ100万年前から、人間の脳の発達が増大し始めた。²当初10万年に1立方インチの割合で拡大していたものが、発達の割合は2倍になり、再び2倍になり、さらにもう一度2倍になった。³50万年前には、発達の割合はピークを迎えた。⁴当時、脳は10万年に10立方インチの割合で拡大していた。⁵生命の歴史の中で、それほど急速な発達を遂げたと知られている器官は他にない。

¹ Starting about one million years ago は分詞構文。

² expand 「拡大する」 at first 「最初のうちに」 at the rate of A 「Aの割合で」

every + 数詞 + 複数名詞 「…毎に」 double 「2倍になる」

³ hit a peak 「ピークを迎える、頂点に達する」

第2段落

¹What pressures generated the explosive growth of the human brain? ²A change of climate that set in about two million years ago may supply part of the answer. ³At that time the world began to enter into a great Ice Age, the first on the planet in hundreds of millions of years. ⁴The trend toward colder weather set in slowly at first, but after a million years areas of ice began to form in the north. ⁵They thickened into glaciers as more snow fell, and then the glaciers joined together into great sheets of ice, as much as two miles thick. ⁶When the ice sheets reached their maximum extent, they covered two-thirds of the North American continent, all of Britain and a large part of Europe. ⁷Many mountain ranges were buried entirely. ⁸So much water was locked up on the land in the form of ice that the level of the earth's oceans dropped by three hundred feet.

¹どのような圧力が人間の脳の爆発的な発達を生み出したのだろう。²およそ200万年前に始ま

った気候の変化がその答えの一部になるかもしれない。³その頃世界は、数億年で初めて地球で起きた大氷河時代に入ろうとしていた。⁴寒冷化の傾向は、最初はゆっくりと始まったが、100万年後には氷の地域が北方で形成され始めた。⁵さらに雪が降るにつれて、氷の地域が厚くなつて氷河となり、氷河はつながって、2マイルもの厚さのある巨大な氷床となった。⁶氷床が最大限に達したとき、北米大陸の3分の2、イギリス全土、ヨーロッパの大部分を覆っていた。⁷多くの山脈は完全に埋没した。⁸非常に多くの水が氷という形で陸地に閉じ込められたため、地球の海洋の水位は300フィート下がった。

pressure 「圧力」 generate 「を生み出す」 explosive 「爆発的な」

supply 「を与える」 ³Ice Age 「氷河時代」

hundreds of millions of A 「数億のA」 ⁴form 「形を成す」

⁵as much as two miles thick は great sheets of ice を修飾。as much as は two miles thick を強調している。

thicken into A 「厚くなつてAになる」 glacier 「氷河」

join together into A 「つながってAになる」 sheet of ice 「氷床」

⁶maximum 「最大の」 extent 「程度、限度」 ⁷two-thirds 「3分の2」

⁷mountain range 「山脈」 bury 「を埋める」 ⁸entirely 「完全に」

第3・4段落

¹These events occurred precisely at the same time as the period of most rapid expansion of the human brain. ²Is this significant, or is it accidental?

³The movements of humans in the last million years provide a clue to the answer. ⁴At the beginning of the Ice Age, humans lived near the equator, where the climate was mild and pleasant. ⁵Later they moved northward. ⁶From their birthplace in Africa they moved up across Arabia and then turned to the north and west into Europe, as well as eastward into Asia.

¹これらの現象は人間の脳の最も急速な拡大の時期とまったく同じ時期に起きたのである。

²このことは意味のあることなのであろうか、あるいは偶然なのだろうか？

³過去100万年間の人類の移動が答えの手がかりを与えてくれる。⁴氷河時代の最初の頃、人類は気候が温暖で快適な赤道付近で暮らしていた。⁵その後、人類は北に向かって移動した。⁶アフリカの人類発祥の地から、アラビアを横断して、北に向かい、アジアへと東に移動しただけではなく、ヨーロッパへと西にも移動した。

- 1 precisely 「まさに、正確に」 expansion 「拡大」
- 2 significant 「意味のある」 accidental 「偶然の」
- 3 provide 「を与える」 clue to A 「Aの手がかり」
- 4 equator 「赤道」 northward 「北へ」
- 6 west into Europe, as well as eastward into Asiaにおいて X as well as Y 「YだけでなくXも」
の X には west into Europe が Y には eastward into Asia がきている。
- Arabia 「アラビア半島」 eastward 「東へ」

第5段落

¹When these early movements took place, the ice still only covered the lands in the far north; but eight hundred thousand years ago, the ice moved southward until it covered large parts of Europe and Asia. ²Then, for the first time, humans encountered the bone-chilling, freezing winds from the cakes of ice in the north. ³The climate in southern Europe had a Siberian coldness then, and summers were nearly as cold as European winters are today.

¹このような初期の移動が行われたとき、氷はまだ最北部の地を覆っていただけだった。しかし、80万年前に、ヨーロッパとアジアの大部分を覆うまで氷は南下した。²そのとき人類は初めて、北の氷のかたまりから吹く骨までしみるような、凍てつく風を知った。³当時南ヨーロッパの気候にはシベリアの寒さがあり、夏は今日のヨーロッパの冬とほぼ同じくらい寒かった。

- 1 take place 「行われる、起きる」 cover 「を覆う」 southward 「南へ」
- 2 for the first time 「初めて」 encounter 「と遭遇する」
- bone-chilling 「骨までしみるような」 freezing 「凍てつく」 cake 「かたまり」
- 3 Siberian 「シベリアの」

第6段落

¹In those difficult times, resourcefulness and inventiveness must have been of great value. ²Which individual first thought of stripping the fur from dead animals to wrap around his body? ³Only by such inventive and imaginative acts could human beings survive a cold climate. ⁴In every generation, the individuals with strength, courage, and creativity were the ones more likely to survive the Ice Age; those who were less resourceful fell victim to the climate and their numbers were reduced.

¹そのような困難なときに、工夫と創意に富んでいることはとても価値があったに違いない。²身体をくるむために死んだ動物から毛皮を剥ぎ取ることを最初に思いついたのは誰だったのだろうか?³そのような創意に富み想像力あふれる行為によって初めて人間は寒い気候を生き延びることができた。⁴どの世代でも、力と勇気と創造性を備えた者が氷河時代を生き延びる可能性が高かった者であり、工夫の才能が劣るものは気候の犠牲となり、そうした者の数は減ったのである。

- 1 resourcefulness 「工夫に富んでいること」 inventiveness 「発明の才能」
- must have done 「…だったに違いない」 of value 「価値のある」
- 2 strip A from B 「BからAを剥ぎ取る」 fur 「毛皮」 wrap around A 「Aをくるむ」
- 4 the ones more likely to survive the Ice Age の more likely 以下は the ones を修飾。ones は individuals の代用。 creativity 「創造性」
- those who ... 「…する人々」 fall victim to A 「Aの犠牲となる」 reduce 「を減らす」

第7段落

¹The Ice Age winter was the greatest challenge that humans had ever faced. ²They were naked and defenseless against the cold, as some little mammals had been defenseless against the dinosaurs one hundred million years before. ³Facing the pressures of a hostile world, both those mammals and humans were forced to live by their wits; and both became, in their time, the most intelligent animals of the day.

¹氷河時代の冬は人類がそれまでに直面した中で最大の難題であった。²その1億年前に小型哺乳動物が恐竜に対して無防備であったのと同様に、人類も衣服をまとわざ寒さに対して無防備であった。³敵意にみちた世界からの圧力に直面して、そうした哺乳動物と人類は、知恵を働かせて生きていくことを余儀なくされた。そして、両者はそれぞれの時代に、最も知能の高い動物となったのである。

- 1 challenge 「難題」 face 「に直面する」
- 2 naked 「裸の」 defenseless against A 「Aに対して無防備の」 mammal 「哺乳動物」
- dinosaur 「恐竜」
- 3 Facing the pressures of a hostile world は分詞構文。
- hostile 「敵意にみちた、敵意のある」 force O to do 「Oに…することを強いる」
- live by one's wits 「知恵を働かせて生きていく」 intelligent 「知能の高い」

解説

問題1 ホッキョクグマが氷の接岸を待っている。

問題2 クマは、固まって巨大な広がりを生み出す浮氷の上でほとんどいつも生活をするが、その巨大な広がりはクマが泳いで渡る小さな開水域で隔てられている。

問題3 クマが寒さの中を生き延びるために使う分厚い脂肪の層に PCB がたまり、その後 PCB がクマの内分泌系に影響を与えて性転換を引き起こすことがある。

問題4 ウ. dark

問題5 エ

問題6 ウ

▶ 設問解説 ◀

問題1 下線部(1)の waiting は前の文の後半にある leaving dozens of underweight and hungry bears roaming on the beaches waiting for its return を受けると考えられるので、wait の主語は dozens of underweight and hungry bears 「何十頭ものやせて腹をすかせたクマ」であることがわかる。また its return は前の文の主語となっている the return of the ice の言い換えであり、「氷が戻ってくること」すなわち「浮氷が陸地に再び接岸すること」を指す。以上を簡潔にまとめればよい。

問題2 The bears(S) live(V) almost entirely on floating ice(副詞句) がこの文の基本構造。that packs ... swim across は floating ice を修飾する関係代名詞節。separated by ... open water は expanses を修飾する過去分詞句であり、that they swim across は open water を修飾する関係代名詞節。separated 以下の直訳は「クマが泳いで渡る小さな開水域によって隔てられた」であるが、後置修飾がいくつも続く形なので、解答例のように途中で一度切った方が意味が伝わりやすい。なお、packs together to create vast expanses の to create vast expanses は、文脈から目的ではなく結果を表す不定詞句と判断し、「固まって巨大な広がりを生み出す」と訳出する。

例 The show went on to become a great success.

「公演は続き、大成功をおさめた」

- almost entirely 「ほぼ完全に」 floating ice 「浮氷」
- pack together 「(雪・氷が)(吹き寄せられて)固まる」 vast 「巨大な」
- expanse 「広がり、広々とした場所」 separate 「を隔てる、分ける」
- open water 「開水域」 海水の凍っていない部分のこと。

問題3 全体の文構造は The huge ... the cold(S) collect(V) PCBs(O) である。used by bears to survive in the cold の過去分詞句が The huge layers of fat を修飾している。また、which 以下は PCBs を補足説明する非制限用法の関係代名詞節であり、その節内で affect their hormonal systems と can cause sex changes の2つの動詞句が and で結ばれている。

- huge 「巨大な」 layer 「層」 fat 「脂肪」 survive 「生き延びる」
- in the cold 「寒さの中で」
- PCB 「ポリ塩化ビフェニル」 (= polychlorinated biphenyl) 催奇性、発癌(はつがん)性が疑われている。
- affect 「に影響を与える」 cause 「を引き起こす」 sex change 「性転換」

問題4 英文全体の内容から、ホッキョクグマの将来は悲観的なものであることは明らか。したがって、正解はウ。

ア.「明るい」 イ.「バラ色の」 ウ.「暗い」 エ.「前途有望な」

問題5 アは第5段落、イは第4段落第1, 2文、ウは第4段落第3, 4文にそれぞれ述べられているが、エは本文中に該当する記述がない。

問題6 ア. 第5段落第5文に Wadhams の見解として述べられている。
 イ. 第2段落第1文に Wadhams の見解として述べられている。
 ウ. 第3段落第2文の Schliebe の見解と不一致。
 エ. 第2段落第3文に Schliebe の見解として述べられている。

新聞や雑誌の記事では、最初の段落で記事全体の概要が述べられ、以下の段落で補足的內容や、より詳しい説明が行われることが多い。したがって、最初の段落をしっかりと把握すれば、記事全体の大まかな内容がつかめることになる。本問では、最初に見出しがあることや、本文中に固有名詞が多いことなどから、記事文であると推測できる。

要約

北極地方の温暖化により氷が縮小したことが、狩猟や汚染により個体数を減らしていたホッキョクグマの生存に脅威となっている。一方、北極海が1年中航海できる可能性が出てきている。(85字)

► 構文・語句解説 ◀

第1段落

Can the Polar Bear Survive?

¹The rapid shrinking of the Arctic ice cap is threatening the world's polar bear population, scientists have warned. ²Studies suggest the decline in the thickness and extent of the ice cap is causing the deaths of hundreds of bears a year. ³The total polar bear population is estimated at only 25,000. ⁴Many spend long periods trapped on land, where they find it hard to feed, rather than on ice, while young bears are dying in dens that melt and collapse.

ホッキョクグマは生き残れるか？

¹北極の氷原の急速な縮小が世界のホッキョクグマの数を脅かしている、と科学者は警告してきた。²さまざまな調査が示すところによると、氷原の厚さと広さの減少が1年に何百頭ものクマの死を引き起こしているのである。³ホッキョクグマの総数はわずか25,000頭と推定されている。⁴その多くが氷の上ではなく、エサを探すのが困難な陸地に長期間閉じ込められて過ごすが、一方で幼いクマは溶けて崩れる巣穴の中で死んでいっている。

1 The rapid ... bear population, scientists have warned. = Scientists have warned that the rapid ... bear population.

shrinking 「縮小、縮み」 Arctic 「北極(の), 北極地方(の)」

ice cap 「〈常に氷と雪で覆われた〉氷原／〈惑星の極などの〉氷冠」

threaten 「脅かす」 polar bear 「ホッキョクグマ」 polar は「極地の」の意味。

population 「〈動物の〉個体数／人口」 warn 「を警告する」

2 study 「調査、研究」 suggest (that) 節 「…ということを示唆する」

decline in A 「Aの減少、低下」 thickness 「厚さ」 extent 「範囲、広さ」

hundreds of A 「何百ものA」 a year 「1年につき」

3 total 「全体の、合計の」

estimate A at B 「A(数・量など)をBだと推定する、見積もる」

4 Many = Many polar bears

where they ... to feed は land を補足説明する関係副詞節。X rather than Y 「YというよりもむしろX」のXに on land, Yに on ice がきている。

spend A done 「A(時間・期間)を…されて過ごす」 trap 「〈人・動物〉を閉じ込める」

on land 「陸地に」 feed 「〈動物が〉物を食べる」 while S V ... 「一方では…」

melt 「溶ける」 collapse 「崩れる、崩壊する」

第2段落

¹Research by Dr. Peter Wadhams shows that the summer ice now averages just 9 feet in thickness compared with 16 feet 20 years ago. He predicts that all the polar ice will disappear during the summer months by about 2080. ²However, the bears will suffer disastrous declines long before then. ³Around Hudson Bay in Canada the increasing warmth has forced bears onto land when the ice melts from July to October. ⁴In recent years, however, the return of the ice has been delayed by up to a month—leaving dozens of underweight and hungry bears roaming on the beaches waiting for its return. ⁵The animals cannot easily find food on land, so every day spent waiting means that they consume more fat reserves.

¹ピーター・ワダムズ博士による研究は、現在の夏の氷の平均的な厚さは、20年前の16フィートに比べて、9フィートしかないことを示している。²2080年頃までに極地の氷はすべて夏の月の間は消えてしまう、と彼は予想している。すると、クマの数はそのずっと前に壊滅的に減少することになるだろう。³カナダのハドソン湾の周りでは、氷が溶ける7月から10月までは、ますます暖かくなっているためクマは陸に上がり海辺で徘徊している。⁴ところが、近年になって、氷が戻ってくるのが1ヶ月も遅くなっている。何十頭ものやせて腹をすかせたクマが氷が戻るのを待ちながら海岸をさまよっている。⁵この動物たちは陸では簡単に食べ物を探すことができないので、待って過ごす1日ごとに、重ねて脂肪の蓄えを消費することになる。

1 research 「研究、調査」 average 「平均」 [+ [名詞]]

feet/foot 「〈長さの単位〉フィート」 の複数形。1フィートは約30cm。

compared with A 「Aと比べて」

2 predict that 節 「…だと予測する、予言する」

3 suffer 「〈被害・影響など〉を受ける、被る」 [+] [形容詞] 「壊滅的な、悲惨な」

long before A 「Aのずっと前に」

4 Hudson Bay 「ハドソン湾」 カナダ北東部の湾。

force A onto land 「Aを陸地へ追い出す」

5 leaving 以下は分詞構文。また、waiting 以下は roaming に対する付帯状況を表す分詞構文。

recent 「最近の」 return 「戻る」 [+] [動詞] 「戻らせる」

by A 「Aだけ、Aの分」 差を表す。 [+] [up to A] 「最高(Aまで)」

leave O doing 「Oを…しているままに放つ」 [+] [dozens of A] 「何十ものA」

underweight 「重量不足の、やせた」 [+] [from] 「(5月)～(7月)」 放浪する」

6 spent waiting は every day を修飾する過去分詞句。

- consume 「消費する」 fat reserves 「脂肪の蓄え」

第3段落

¹Scott Schliebe said huge changes in the biology of the Arctic were apparent. ²"The pack ice is already diminishing every summer and without pack ice I cannot see how the bears would survive. ³They are not adapted for living on land," he said. ⁴The bears live almost entirely on floating ice that packs together to create vast expanses separated by small areas of open water that they swim across. ⁵They are superbly adapted for survival in the frozen north, eating mainly seals. ⁶They range across a huge area of ice controlled by Russia, America, Canada, Greenland, and Norway. ⁷Adult males reach weights of 1,500 pounds and are among the fiercest and most dangerous of animals.

¹スコット・シュリーベは、北極の生態における大きな変化は明らかである、と述べた。²パックアイスはすでに夏ごとに減りつつあり、パックアイスがなければクマがどうやって生き残っていくのかわかりません。³クマは地上で生きることには適していないのです」と彼は言った。⁴クマは、固まって巨大な広がりを生み出す浮氷の上でほとんどいつも生活をするが、その巨大な広がりはクマが泳いで渡る小さな開水域で隔てられている。⁵クマは北の凍った地方で、主にアザラシを食べながら生き延びていくことに見事に適応している。⁶クマはロシア、アメリカ、カナダ、グリーンランド、そしてノルウェーによって管理されている巨大な氷原のあちこちに生息している。⁷成長したオスは体重が1,500ポンドにも達し、最もどう猛で危険な動物のうちに数えられる。

1 biology 「生態／生物学」 be apparent 「明らかである」

2 without pack ice は how the bears would survive という仮定法の帰結節に対する条件を表す前置詞句。

- diminish 「小さくなる、縮小する」 see how S V ... 「どのように…するのかわかる」

3 be adapted for A 「Aに適している」

5 eating mainly seals は分詞構文。

- superbly 「すばらしく、見事に」 survival 「生存、生き延びること」

- frozen 「凍った」 mainly 「主に、主として」

6 range 「(動植物が)分布する、生息する」 across A 「Aのいたる所に」

7 adult 「(動植物が)成長した、成熟した」 male 「オス」 weight 「体重」

- pound 「(重さの単位)ポンド」 1 ポンドは約0.45kg。 be among A 「Aの1つである」

fierce 「どう猛な」

第4段落

¹Bears have long been hunted by humans for meat and fur. ²The numbers to be destroyed are now strictly controlled by international agreements but hundreds are still killed each year. ³Humans also present another threat to bears—through pollution of the sea with poisonous chemicals called PCBs, which accumulate in fat. ⁴The huge layers of fat used by bears to survive in the cold collect PCBs, which then affect their hormonal systems and can cause sex changes.

¹クマは肉と毛皮のために、長い間、人間による狩りの対象となってきた。²狩られる数は国際協定によって今では厳しく規制されているが、今でも毎年何百頭も殺されている。³人間はまた、脂肪に蓄積する PCB と呼ばれる毒性のある化学物質で海を汚染することを通じて、クマに別の脅威も与えている。⁴クマが寒さの中を生き延びるために使う分厚い脂肪の層に PCB がたまり、その後 PCB がクマの内分泌系に影響を与えて性転換を引き起こすことがある。

1 long 「長い間」 hunt 「を狩る、狩猟する」 humans 「人間」 fur 「毛皮」

2 The numbers to be destroyed は「(狩猟によって)殺されてもよい数」という意味。

- be destroyed 「(動物などが)殺される」 kill の婉曲表現。 strictly 「厳しく」

international agreement 「国際協定」

3 present A to B 「A<困難など>をBに与える」 threat 「脅威」

pollution of A with B 「AをBで汚染すること」 poisonous 「毒性のある」

chemical 「化学物質」 accumulate 「蓄積する、たまる」

第5段落

¹Scientists say the warming of the Arctic is largely due to rising global temperatures.

²The direct effect is to melt the ice from above—but the indirect effect is even more destructive. ³Wadhams' research shows that the Gulf Stream and other currents that carry warm water north have become stronger, warming water beneath the ice cap to melt it from below, too. ⁴Another effect of the melting ice will be to open up the shipping routes between Europe, northern Russia and the Far East and to end the annual winter isolation of Siberia. ⁵"In the next few years we are going to see the opening up of the Arctic Ocean to year-round traffic," said Wadhams. ⁶"Eventually the northwest passage around Canada may open up, too. ⁷It will completely alter our trading patterns—but for bears

¹科学者は、北極地方の温暖化は主に地球の気温の上昇が原因である、と言っている。²直接的な影響は、氷が上から溶けることだが、間接的な影響はさらに破壊的である。³ワダムズの研究は、暖かい海水を北に運んでくるメキシコ湾流やその他の海流が強くなり、氷原の下の海水を温め、下からもそれを溶かしている、ということを示している。⁴氷が溶けていくことのもう1つの影響は、ヨーロッパ、ロシア北部、そして極東との間の航路が開かれることであり、シベリアが毎年冬に孤立しているのが終わることである。⁵「今後数年の間に、北極海に1年じゅう船の行き来が始まるのを私たちは目にすることになるだろう」とワダムズは言った。⁶「やがては、カナダを回る北西航路も開かれるかもしれない。⁷それは私たちの貿易のパターンを完全に変えることだろう。しかし、クマにとっては、将来は暗いであろう」

1 warming 「温暖化」 largely 「主に、主として」 be due to A 「Aのせいである」
 global 「地球の」

2 effect 「影響／結果」 from above 「上から」 even + 比較級 「さらに…」
 destructive 「破壊的な」

3 warming 以下は連続・結果の分詞構文で、become stronger に対する補足説明となっている。
to melt 以下は結果を表す不定詞句。

currents 「海流」 warm 「を暖める」 beneath A 「Aの下に(ある)」
 from below 「下から」

4 open A up 「A を切り開く」 shipping route 「航路、海路」
 the Far East 「極東地方」 日本や朝鮮半島などアジア大陸の東端の地区。
 annual 「毎年の」 isolation 「孤立」 Siberia 「シベリア」

5 the Arctic Ocean 「北極海」 year-round 「1年じゅうの」
 traffic 「交通、行き来」 ここでは「船で行き来できること」という意味。

6 eventually 「やがては、最終的に」 northwest 「北西の」 passage 「航路、通路」
7 completely 「完全に」 alter 「を変える」 trading 「貿易の」

19

ラジオの役割

解 答

問1 意思伝達の形態が変化するにつれて、私たちが一体となっている共同体も変化する。

問2 地球規模であると同時に瞬間的でもある意思伝達の可能性は、世界人口の大半にとって決して現実的なものではない。

問3 工

問4 radio

問5 これらのグループから、大陸のいたるところで、教育的と自称しながらも正規の教育の仕組みの外にあってそれとは関わりを持たないラジオ番組が生まれてきた。

問6 インターネットを通じて得られる莫大な情報源と、ラジオ以外の電子メディアを利用することができない何百万の人々との間の架け橋に、ラジオがなる可能性を秘めていること。(81字)

▷▷ 設問解説 ◀◀

問1 As S V … , so S' V' ~で「…と同様に～／…するにつれて～」の意味。soの後ろでは so + 助動詞 + S の語順になることがある。

例 As the demand rises, so do prices.

「需要が高まるにつれ、価格も高まる」

with which we identify は the communities を修飾する関係代名詞節。

identify with A 「Aと同一化する、Aと一体感を持つ」

問2 it は Although 節の主語 this possibility を指し、this possibility は第1・2段落第6文の the possibility of communication as both global and instant at the same time を指している。

be far from A 「Aにはほど遠い、決してAではない」 reality 「現実(のもの)」

population 「人口」

問3 下線部(3)のもたらしたものは、下線部を含む文の has led to 以下に書かれているが、その中に「スーパーマーケット・チェーンの世界的展開」は含まれていない。

revolution 「革命」

問4 空所(4)を含む文の主語 That は直前の文の主語 Only one electronic communications medium 「たった1つの電子通信メディア」を指しており、この文ではそのメディアが「先進世界においても最貧国においても広く行き渡っている」と説明されている。そして、空所の後ろの第5・6段落では、「ラジオ」がいかに一般大衆に広く利用できるメディアとなっているかが、ラテンアメリカの例を挙げながら述べられる。したがって、空所には radio を入れるのが最も適当である。

問5 文全体の構造は radio programs(S) have emerged(V) で、文頭の From these groups と across the continent の 2つの前置詞句は have emerged を修飾している。また、which 以下の関係代名詞節は文の主語 radio programs を修飾している。なお、which 以下において、describe themselves as educational と are outside ... formal education が but で結ばれている。また、the structures of formal education は outside と unconcerned with に共通して続く名詞句である。

- across A 「Aのいたるところで」 continent 「大陸」
 - emerge 「生じる, 生まれる」 describe *oneself* as A 「Aだと自称する」
 - be unconcerned with A 「Aと関わりがない, Aと無関係である」
 - structure 「仕組み, 構造」 formal education 「正規教育, 公教育」

問6 下線部(6)を含む文では「地域社会でラジオを運営するグループがすでにこの機会を利用している」と述べられているので、this opportunity 「この機会」とは「ラジオが持つ機会」だとわかる。直前の文で「ラジオの持つ可能性」について述べられていることから、その内容を制限字数内でまとめればよい。

卷之三十一

論説文によっては、導入部分に続いて、主題が中頃の段落で提示されることがある。本問では、最初の3段落で通信手段についての概説が述べられた後、第4段落で「ラジオの可能性」という主題が提示され、そこから後ろではこの主題をめぐって論が展開している。問4は、このような論旨展開を追うことができたかどうかを問う問題である。

要 約

発展途上の世界においては、ラジオは大衆が最も手軽に利用できる通信メディアである。今後もインターネットを利用できない人々にインターネット上の膨大な情報を提供するなど、ラジオの果たす役割は大きい。(96字)

▶ 構文・語句解説

第1・2段落 —

¹Communication is the means by which people create their identity. ²It underlies our sense of community, our sense of belonging and our sense of difference.

³As patterns of communication change, so do the communities with which we identify.

⁴The printing press brought about a revolution in the spread of ideas and information. 5A

more far-reaching revolution in communication came about at the end of the nineteenth century with the arrival of electricity and the first experiments in electronic means of communication. This was the beginning of the information revolution—the possibility of communication as both global and instant at the same time.

「意思の伝達は人々が自分らしさを創りあける手段である。」これは私たちの共同体意識、帰属意識、差異意識の基盤になっている。

³意思伝達の形態が変化するにつれて、私たちは印刷機を中心とする共同体を分化する。⁴印刷機は、思想や情報を広げるうえで革命をもたらした。印刷機の発達におけるより広範囲にわたる革命は、電気の到来と意思伝達の電子的な手段の最初の実験的開拓もしくは、10世紀の終わりに起きた。⁵これは情報革命の始まり、すなわち地球規模である同時に個別的である概念伝達の可能性の始まりであった。

¹ by which people create their identity (cf. the notion of *identity construction*).

- means 「手段」 identity 「自分らしさ, 自由個性」
 underlie 「の基礎となる／の下にある」 sense of community 「共同体意識」
 sense of belonging 「帰属意識, 身内意識」
 printing press 「印刷機」 bring A about 「Aを生む」 spread 「広がり」
 the arrival of electricity と the first experiments in electronic means of communication が
 結ばれている。
 far-reaching 「広範囲にわたる」 come about 「起きる, 生じる」
 the arrival of A 「Aの到来」 electricity 「電気」 experiment 「実験」
 electronic 「電子的な」
 the possibility of A as B 「AのBとしての可能性」 global 「世界規模の, 世界的な」
 instant 「瞬間的な」

第3段落

¹Although this possibility is inherent in the new technologies, it is far from a reality for most of the world's population. ²There are more telephones in Tokyo than in the whole of sub-Saharan Africa. ³Television is a mass medium only in the most developed countries. ⁴Computers and the Internet are not accessible to most of the world's poor. ⁵The information revolution has led to the combining of the world's banking services, commodity markets, data systems and capital flows but has widened the division between the information haves and the information have-nots.

¹この可能性はその新しい科学技術に本来備わっているものであるが、それは世界人口の大半にとっては決して現実的なものではない。²東京にはサハラ砂漠以南のアフリカ全体よりもたくさんの電話がある。³テレビは、最も発展した先進国においてのみ、マスメディアの1つとなっている。⁴コンピュータとインターネットは、世界の貧困層のほとんどの人々には利用することができない。⁵情報革命は世界の銀行業務、商品市場、データシステム、そして資本の流れの統合をもたらしたが、情報を持つ者と持たざる者の間の格差を拡大した。

1 inherent「本来備わっている」 technology「科学技術」

2 the whole of A「A全体」

3 mass medium「マスメディア、マスコミ」mediumはmediaの単数形。

developed country「先進国」

4 be accessible to A「Aにとって利用可能な」

the world's poor「世界にいる貧しい人々」

5 has led ... capital flows と has widened ... information have-nots が butで結ばれている。

lead to A「Aをもたらす」 combining「結合、統合」

banking services「銀行業務」 commodity market「商品市場」

capital flow「資本の流れ」 division between A and B「AとBの相違、格差」

the information haves「情報を持つ者」 the information have-nots「情報を持たざる者」

第4段落

¹Only one electronic communications medium has become both an intimate and widespread presence throughout the developed world and penetrated into the remotest rural areas of the poorest countries. ²That, of course, is radio.

¹先進世界のいたるところで身近で広く行き渡った存在になっており、最貧国のどんなに辺鄙な田舎の地域にも浸透している電子通信メディアが1つだけある。²それはもちろん、ラジオである。

1 intimate「親しい、密接な」 widespread「広く行き渡った」

throughout A「Aのいたるところで、Aじゅうで」 penetrate into A「Aに浸透する」

remote「辺鄙な、人里離れた」 rural「田舎の」

第5段落

¹Bruce Girard has described the Latin American environment as a 'radio-phonic salad' of state, private, church, university, special interest and native peoples' radio stations. ²He describes a rapid increase in the use of radio by popular groups over the past 20 years.

³There are radio stations run by peasants' organizations and women's groups, and there are radio stations run by the Catholic Church or by labor unions such as those of the Bolivian tin miners. ⁴From these groups, across the continent radio programs have emerged which describe themselves as educational but are outside and unconcerned with the structures of formal education. ⁵Native people, for example, have their own radio stations which take account of local languages and traditions.

¹ブルース・ジラードはラテンアメリカの環境を国家、民間、教会、大学、特別利益団体、そして先住民族によるラジオ局の「ラジオフォニック・サラダ」と評している。²彼は、過去20年間に一般大衆のグループによるラジオの利用が急速に増えている、と述べている。³農場労働者の組織や女性グループによって運営されているラジオ局があるし、またカトリック教会や、たとえばボリビアのすず鉱山の鉱夫組合のような労働組合によって運営されているラジオ局もある。⁴これらのグループから、大陸のいたるところで、教育的と自称しながらも正規の教育の仕組みの外にあってそれとは関わりを持たないラジオ番組が生まれてきた。⁵たとえば、先住民はその土地の言語と伝統を重視する自分たちのラジオ局を持っている。

1 describe A as B「AをBだと述べる、説明する」

Latin American「ラテンアメリカの、南アメリカ大陸の」

radio-phonic salad「ラジオフォニック・サラダ」さまざまなラジオ局が混在している状況を述べたもの。 state「国家の」

special interest「特別利益団体」経済の特殊な部門に特別な権益を有する法人・団体。

- native people 「原住民族」
- 2 over the past A 「この A <期間>にわたって、過去 A の間」
- 3 those = the labor unions
- run 「を運営する、経営する」 peasant 「農場労働者」 organization 「組織」
- labor union 「労働組合」 Bolivian 「ボリビアの」
- 5 one's own A 「自分自身の A」 take account of A 「A を重視する」
- local 「地元の、当地の」 tradition 「伝統」

第6段落

¹Next to spoken language itself, radio is the easiest medium to use for learning and teaching. ²It is the most worldwide medium available and is cheap and straightforward to set up. ³It potentially offers a bridge between the vast knowledge resources available through the Internet and the millions of people who have access to no other means of electronic communication. ⁴Community radio groups are already exploiting this opportunity through Internet-based news and information services such as the Latin American radio news agency Pulsar. ⁵An inclusive, more equal and more democratic society requires an inclusive and more open communications environment which, together, we can call a communicative democracy. ⁶One element in the communicative democracy must be popular and open access to the media of mass appeal, and radio is the most suitable medium.

¹話し言葉そのものを除けば、ラジオは学習と教育のために最も簡単に利用できる媒体である。²それは世界で最も広く利用できる媒体であり、安価で簡単に設立できる。³ラジオはインターネットを通じて利用できる莫大な知識の資源と、それ以外の電子通信の手段を利用できない何百万もの人々との架け橋を提供する可能性を秘めている。⁴地域社会でラジオを運営するグループが、たとえばラテンアメリカのラジオニュース通信社パルサーのような、インターネットに基づくニュースと情報の配信事業を通じて、すでにこの機会を利用している。⁵包括的で、より平等で、より民主的な社会には、通信民主社会とまとめて呼べるような、包括的でより開かれた通信環境が必要である。⁶その通信民主社会の1つの要素は、大衆に魅力的なメディアが広く誰にでも利用できるということでなければならず、ラジオは最も適したメディアなのである。

- 1 next to A 「A に次いで」 spoken language 「話す言葉」 ,
- 2 available 「利用できる」 straightforward 「簡単」 , 楽解「ない」
- set A up 「A <制度・施設> を設立する」
- 3 potentially 「潜在的に、もしかすると」 bridge between A and B 「A と B の架け橋」
- vast 「莫大な、膨大な」 resources 「供給物、資源」
- have access to A 「A を利用する」
- 4 exploit 「を利用する、活用する」 Internet-based 「インターネットによる」 , 基づく「」
- news agency 「通信社」
- 5 require 「を必要とする」 inclusive 「包括的」 , 平等「」
- democratic 「民主的な」 open 「開かれた」 , (構造的)「」
- together 「まとめて、ひっくるめて」 communicative 「通信的」
- 6 popular 「一般向けの、大衆的な」
- of mass appeal 「大衆に魅力的な、大勢の人に対する」 suitable 「適した」

解 答

問1 1. 現象を記述する。2. 現象を評価する。

問2 我々が何かをあるいは誰かを記述しようとするときには、我々が用いる言葉は、自分自身の好き嫌いを反映するという点で、必ずといってよいほど価値観を伴うのである。

問3 イ

問4 Incredible as it may seem

問5 エ. mutual

問6 other people

▷ 設問解説 ◁

問1 下線部(1)は「言語は多くの機能を果たしている」という意味。直後の第1段落第2文に「言語の目的の1つは現象を記述する(のを助ける)こと」とあり、第3文に「もう1つの目的は現象を評価すること」とあるので、この2つを答えばよい。

serve 「を果たす、に役立つ」 function 「機能」

問2 When we ... or someone と in that ... and dislikes が共に主節を修飾している。in that S V ... は「…するという点で」という意味。なお、we use は the words を修飾する関係代名詞節。

例 I've been lucky in that I have never had to worry about money.

「私は、お金について心配しなければならないことがなかったという点で、恵まれていた」

attempt to do 「…しようとする／…しようという試み」

describe 「(を)記述する、(の)特徴を述べる」 values 「価値観」

reflect 「を反映する」 likes and dislikes 「好き嫌い」

問3 下線部(3)の直後の文の内容「人を記述するとなると、評価的意味を欠いた言葉を見つけることはほとんど不可能である」から判断する。

問4 接続詞の as は、形容詞+as S V ... という語順で用いると「…だけれども」という譲歩を表す。ここでは、as it may seem incredible と並べると「…なので」という理由を表すので、we simply ... 以下と意味がつながらない。

例 Unlikely as it may seem, he won the race.

「ありえないと思えるかもしれないけど、彼がそのレースに勝ったのです」
 incredible 「信じられない」 seem C 「Cのようである」

問5 次の文が that is 「すなわち、つまり」で始まっているので、その文と同じ内容になるように、空所(5)に入るものを考える。次の文では「考え方と言語の使い方が相互に影響を与えている」と述べられている。なお、not only X but (also) Y 「XだけでなくYも」の not only が S V の前に置かれたことで、倒置が起きていることに注意。

ア. 「間接的な」イ. 「限られた」ウ. 「文化的な」エ. 「相互の」

問6 下線部(6)を含む部分の構造は、the words they use(S) tell(V) us(O₁) much (O₂) であり、about them と about the events 以下が比較された同等比較の文。they use は the words を修飾する関係代名詞節で、they は other people を指している。本文では、「記述だけに使われる客観的な言葉ではなく、言葉はそれを使う人の価値判断を表す評価的意味を伴う」ことが繰り返し述べられていることから、「他者が使う言葉が、彼らが記述しようとしている出来事や人についてと同じく教えてくれる」のは、「言葉を使う人」である。したがって、正解は other people。

（参考）論説文・主張・構成・結論

論説文では、ある主題をめぐって論を展開した上で、筆者の主張や結論が最後に述べられるという論旨展開をとることがある。特に筆者の個人的な見解や主張などを述べた文章ではこの展開をとることが多い。本問では、第1段落で「記述と評価という言語の2つの機能」が導入として述べられ、第2段落第1文では逆接のディスコース・マーカー But に続いて、疑問文という形で「その2つの機能の不可分性」という主題が提示されている。それ以降でこの問題をめぐって論が展開し、最終段落で「言語の使用に内在する価値判断に注意する必要がある」という結論が述べられている。

要 約

言語は記述と評価を行うが、特に人を記述する際は評価的意味を欠く言葉がないため、中立を保つことができない。考え方と言葉の使い方は相互に影響を及ぼすため、言語の使用に内在する価値判断に注意する必要がある。(100字)

▶ 構文・語句解説 ◀

第1段落

¹Language serves many functions. ²Certainly one of its most common and most important purposes is to help us describe various phenomena, such as events, situations, and people: "What is it?" ³Another purpose is to evaluate these same phenomena: "Is it good or bad?" ⁴Typically, we consider descriptions to be objective, whereas we consider evaluations to be subjective.

¹言語は多くの機能を果たしている。²間違いなく、最も一般的で最も重要な目的の1つは、我々が出来事や状況や人のようなさまざまな現象を記述する、つまり「それは何なのか」ということを記述するのを助けることである。³もう1つの目的は、これらの同じ現象を評価する、つまり「それは良いのか悪いのか」と評価することである。⁴概して我々は、記述を客観的であると考える一方で、評価を主観的であると考える。

- 2 □ certainly 「間違いなく、確かに」 □ help O do 「Oが…するのを助ける」
□ phenomena < phenomenon 「現象」の複数形。 □ situation 「状況」
3 □ evaluate 「(を)評価する」
4 □ typically 「概して／典型的に」 □ description 「記述」 □ objective 「客観的な」
□ whereas S V ... 「ところが一方で…」 □ evaluation 「評価」 □ subjective 「主観的な」

第2段落

¹But is the distinction between objective description and subjective evaluation a clear one? ²The answer, in the vast majority of cases, is no. ³Why? ⁴Because words both describe and evaluate. ⁵When we attempt to describe something or someone, the words we use almost always carry values, in that they reflect our own personal likes and dislikes. ⁶Thus, our use of any particular term serves not only to describe, but also to assert what is desirable or undesirable to us.

¹しかし、客観的な記述と主観的な評価の間の区別ははっきりしたものなのだろうか。²答えは、大多数の場合、否である。³なぜなのだろう。⁴なぜなら、言葉は記述も評価もするからである。⁵我々が何かをあるいは誰かを記述しようとするときには、我々が用いる言葉は、自分自身の好き嫌いを反映するという点で、必ずといってよいほど価値観を伴うのである。⁶したがって、どのような特定の言葉を用いても、記述するだけでなく、我々にとって望ましいこと、あ

るいは望ましくないことを主張することになる。

- 1 □ distinction between A and B 「AとBの区別」
2 □ the vast majority of A 「Aの大多数」
3 Why? = Why is the answer no?
6 □ any A 「〈肯定文で〉どんなAでも」 □ term 「言葉」
□ serve to do 「…するのに役立つ」 □ assert 「を主張する」 □ desirable 「望ましい」

第3段落

¹This problem is not so prevalent in the physical sciences, as compared to the social sciences. ²Let's take, as an illustration, the terms cold and hot. ³In the field of physical sciences, both terms refer, in a relatively neutral sense, to the rate of molecular vibrations (or temperature): "That liquid is very cold," or "That liquid is very hot." ⁴When we use these same terms to describe an individual, however, they take on a distinctly evaluative meaning: "That person is very cold," or "That person is very hot."

¹この問題は、社会科学と比べて、自然科学の場合にはそれほど広く認められない。²例として、「冷たい」「熱い」という言葉を取り上げてみよう。³自然科学の分野では、いずれの言葉も、比較的中立的な意味合いで、分子の振動の割合（つまり温度）を表す。すなわち、「あの液体はとても冷たい」とか「あの液体はとても熱い」といった具合である。⁴しかし、これらの同じ言葉をある個人を記述するのに用いると、はっきりとした評価的意味を帯びる。「あの人はとても冷たい」とか「あの人はとても熱い」といった具合になる。

- 1 □ prevalent 「広く認められる、広く行き渡っている」 □ physical science 「自然科学」
□ as compared to A 「Aと比べて」 □ social science 「社会科学」
2 □ illustration 「例」
3 □ refer to A 「Aを表す、 Aに言及する」 □ relatively 「比較的」 □ neutral 「中立的な」
□ rate 「割合」 □ vibration 「振動」 □ liquid 「液体」
4 □ take on A 「A(様相・性質など)を帯びる」 □ distinctly 「はっきりと」
□ evaluative 「評価的な」

第4段落

¹What are the consequences of the evaluative bias of language? ²The words that we use can, with or without intention, become powerful instruments of change. ³In those instances where we are deliberately attempting to influence others to agree with our point of view, we intentionally select words that most persuasively communicate our values. ⁴In many cases, however, the process is unintentional. ⁵Our best attempts to remain neutral are restricted by the limits of language. ⁶When it comes to describing people it is nearly impossible to find words that are empty of evaluative meaning. ⁷Incredible as it may seem, we simply don't have neutral adjectives to describe personality characteristics. ⁸And even if such words did exist, we still would be very likely to utilize the ones that reflect our own personal preferences.

be likely to do 「…する可能性がある」 as... as possible 「できる限り…」 utilize 「を用いる」

preference 「好み」

第5段落

¹This also emphasizes the mutual influence of attitudes and language. ²That is, not only do our attitudes and perceptions affect our use of language, but our use of language in turn influences our attitudes and perceptions.

¹このことはまた、考え方と言語が相互に影響を及ぼすことを強調している。²すなわち、我々の考え方と認識が言語の使い方に影響するだけでなく、同様に言語の使い方が考え方や認識に影響を及ぼすのである。

1 emphasize 「を強調する」 attitude 「考え方、態度」

2 perception 「認識」 in turn 「今度は、次に」

第6段落

¹Because of the evaluative bias of language, we must be careful both to become aware of our own personal values and to communicate these values as openly and fairly as possible. ²In other words, we should avoid presenting our value judgments as objective reflections of truth. ³We should also be alert to the value judgments inherent in other people's use of language, and in many cases the words they use tell us at least as much about them as about the events and individuals they are attempting to describe.

¹言語が持つ評価的偏りのために、我々は自分自身の個人的な価値観を意識し、こうした価値観をできる限り率直に公正に伝えるように注意しなければならない。²言い換えれば、我々は自分の価値判断を真実を客観的に反映するものとして示すことを避けるようにすべきである。³また、我々は他者の言葉の使い方に内在する価値判断に注意しなければならず、多くの場合彼らが使う言葉は、彼らが記述しようとしている出来事や人についてと少なくとも同じくらい彼ら自身についても教えてくれるのである。

1 be careful to do 「…するように気をつける」 as... as possible 「できる限り…」

openly 「率直に、公然と」

2 in other words 「言い換えれば」 present 「を示す」 reflection 「反映」

1 consequence 「結果」 bias 「偏り」

2 intention 「意図」 instrument 「道具」

3 where we ... of view は those instances を修飾する関係副詞節。

instance 「場合／例」 deliberately 「計画的に、故意に」

influence O to do 「Oに…するように働きかける」 agree with A 「Aに同意する」

point of view 「観点」 intentionally 「意図的に」 persuasively 「説得力を持って」

5 remain C 「Cのままである」 restrict 「を制限する」

6 when it comes to A 「Aということになると」 be empty of A 「Aを欠いている」

7 simply not 「まったく…でない」 adjective 「形容詞」 personality 「人格、個性」

characteristic 「特徴」

8 even if such words did exist, we still would be ... は仮定法過去。did は動詞強調の助動詞。ones は words の代用。

3 inherent in other people's use of language は the value judgments を修飾する形容詞句。

they are attempting to describe は the events and individuals を修飾する関係代名詞節。

be alert to A 「Aに用心する」 inherent in A 「Aに内在する, 固有の」